

教職員・院生版生協だより

かけはし

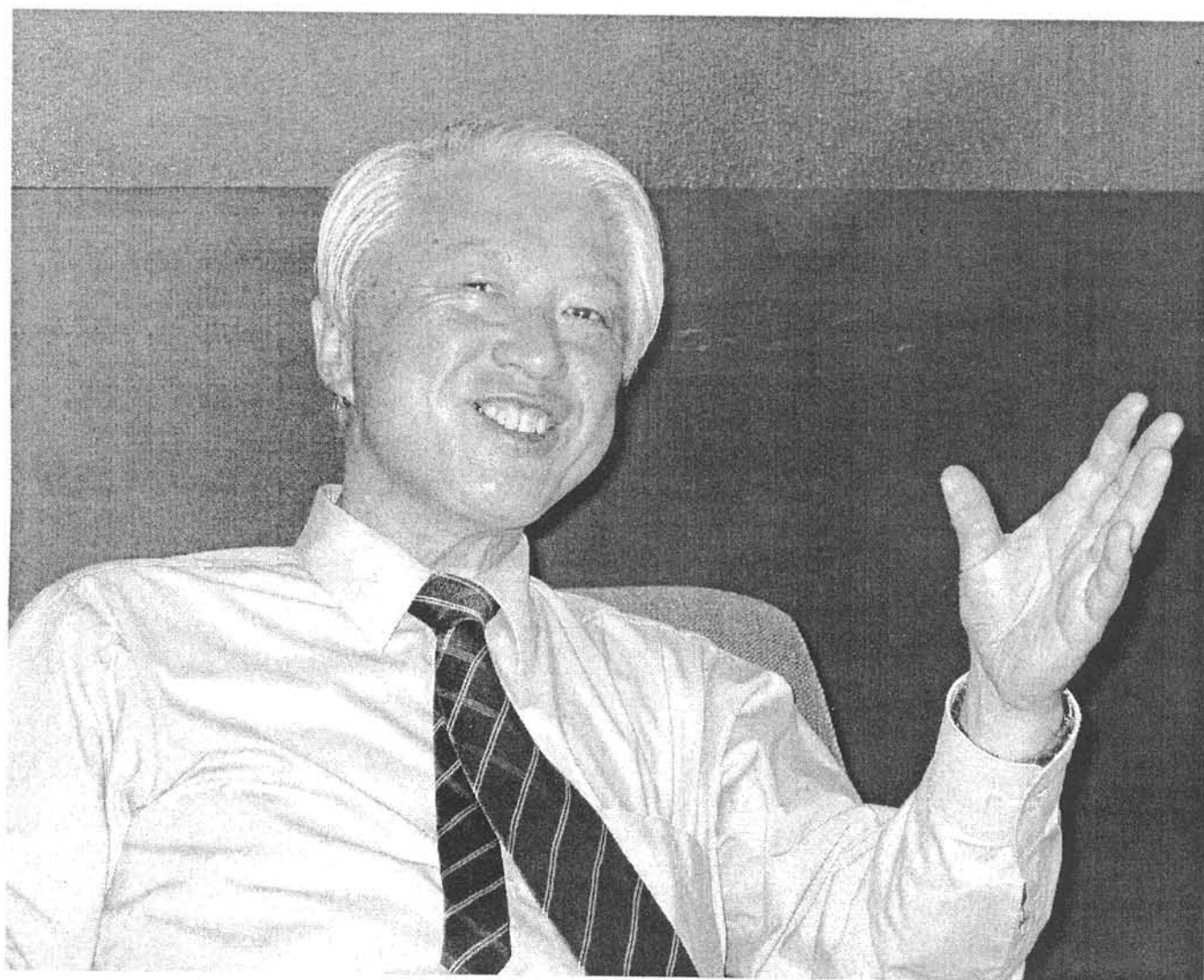
No. 248

2003年 7・8月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



**「そこの本屋とは違う大学生協であってほしい」
と語る河野正憲法学研究科長**

名大生協のホームページ (URL) <http://www.coop.nagoya-u.ac.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

主張《今こそ示すべきは平和憲章の精神》	3
学問の魅力、学生、生協への期待ー研究科長へのインタビュー④	
河野正憲法学研究科長	4

【報告】

新入教職員・院生歓迎生協ガイダンス	17
生協利用者懇談会(理学部)の報告	18
名大祭有志企画「ミニ平和資料館」を終えて	19
京都大学生協施設見学と活動交流会	20
北部生協まつり教職員委員会企画報告	21
教職員委員会の活動日誌	21

【記事】

新フィールド・ノートーその77ー「岡崎」	22
私の百名山「会津駒ヶ岳」	24
投稿「イラクに自衛隊を送ってはならない！」	28
魔言「奇貨おくべし」「マスク姿」「スーパー・スプレッダー」	30
ひとりごと「技能オリンピックで健闘した日本人」	32
ニュースに一喝「おびえるー不安ビジネス17兆円ー」	33
私の読んだ本「豊かさの条件」	36
かけはしの輪	34
アンケート・クイズ解答用紙	38
CO-OP QUIZ<Logic>	39
本やタウン登録&利用促進キャンペーン	裏表紙



「そこの本屋とは違う大学生協であってほしい」
と語る河野正憲法学研究科長

表紙のことば

6月4日、かけはしのインタビューで共同教育研究施設に間借りしている法学研究科長室に河野正憲教授を訪ねた。先生の研究テーマである国家裁判(民事裁判制度)についての国による違い、国際的紛争解決のための国際的プロジェクトに参加されたお話などを聞くことが出来た。学生にはもっと拘って積極的になってほしい。生協については多種多様でいいです。限られたスペースで良くやっているとお誉めの言葉を頂いた。

主張

国立大学法人化法案が国会で暗礁に乗り上げた。遠山文部科学大臣が嘘の答弁をしたからだ。遠山文部科学大臣は中期計画・目標に関して「目標や計画は漠としたもの」「個々の研究者の研究内容までは問わない」などと答弁してきたが、実際には「準備」の名目で、各大学に詳細な目標・計画の案の作成、提出を求めてきたことが発覚。参院での審議が十日以上もストップする事態になった。

しかし、この問題は単に文部科学省だけでなく、文部科学省の指示に従って法人化法案が提出される前にその内容を事前に酌量し、大学の理念に関する重要な問題（大学の自治と学問の自由）について無原則に妥協してきた国立大学側にも問題がある。

わが名古屋大学においては、全国の大学に率先して、中期計画・目標を策定し、組織改革委員会で「独立行政法人」を手本とした「名古屋大学法人」を描いていた。

る。このことは、総長選考暫定措置の議論において極めて象徴的に現れている。そこでは、大学の理念を放り投げて、平和憲章や学術憲章を大きく逸脱していることに、もっとも多くの注意を払うべきであろう。

6月の評議会では、全構成員自治を「学生・院生の意向投票」という形で実現していた総長選考規定を、法人化に向けた体制

いまこそ示すべきは 平和憲章の精神

作りという大義名分で棚上げし、暫定処置なるものに取り替えた。暫定処置では「学生・院生の意向投票」を廃止することで、全構成員自治が葬られたのである。

理念を失った大学に、いったい何が残るといえるのだろうか？ 新自由主義的競争に煽られ、人間性を喪失した弱肉強食のサバイバルレースを強要され、そのゴールには凶暴な現代資本主義と深く結びついた無軌道な科学技術立国が待ち受けている。

わたしたち名古屋大学には「平和憲章」（1987・2制定）がある。平和憲章は、戦前・戦中の戦争に率先して協力し軍需産業最優先の研究と軍国教育によって学生を戦場に駆り出したことへの深い反省に立ち、二度と戦争に協力しないことを誓ったものである。そして、軍需産業とは無縁の善良な企業との共同研究を大いに進め地域産業の育

成や振興に力を注ぐこと、平和の学問を創設し平和を求める世界の諸団体と協力して世界平和に寄与すること、憲章の理念と目標を達成するために全構成員自治の原則が不可欠であることを宣言した。

平和憲章は、名古屋大学が掲げたものではなく、名古屋大学の構成員（教職員、学生、院生、生協職員）個人の賛同署名が過半数を得たことで、構成員の総意として内外に宣言したもので

ある。平和憲章は、署名した個人として、自らを律する規範として個人が誓ったものであることに大きな意味があった。

さて、私たちは今、「平和憲章」の精神と向き合ったとき、どうであろうか。松尾総長はこれまでの2回の総長選考において、3者（全学会、名院協、職組）アンケートに「平和憲章の精神を守り・・・」と回答されている。

現在「法人化」を奨めている名古屋大学の中核を形成している人々の多くは「平和憲章」に署名されているのではないだろうか。しかるに、現在進行している事態は、「平和憲章」の精神とはかけ離れた、否、正反対のものではないか。平和憲章制定後の最初の入学式において当時の飯島総長は「平和憲章は命を懸けて署名すべきもの」という主旨を祝辞で述べられた。

平和憲章の名古屋大学は変節した！ 現状はそれを否定することができない。しかし、心あるものは抵抗しているのである。

いまこそ示すべきは平和憲章の精神！ この一言に尽きる。

学問の魅力、学生、生協への期待

—研究科長へのインタビュー④

河野 正憲 法学研究科長

名古屋大学法学研究科教授
大学院法学研究科長
法学部長

私の専門は民事訴訟法

加藤 まず先生の研究テーマについてお話を伺いたいと思います。その後大学が法人化によって変化——法学部

で言えば法科大学院のこともありますが、そんな中でどんな名古屋大学を創っていか、それについてのいろんな情報を教えていただければと思います。三つ目に、生協は学生、大学院生の関わりが大きいわけですが、そういう人たちも含めて先生の環境も交えながら、アドバイスのなことをいただけたらということ、また生協に対するご意見・ご助言等いただけたらと思います。

河野 私の専攻は民事訴訟法でして、民事の裁判手続きの基本的な問題を考えるということとです。民事裁判というのは国の裁判所の中で私人間の紛争を解決するということから、基本的には私人間の争いですが、裁判という国家の制度を使うということで、大

きな考え方の違いが出てきます。

国の裁判というものを強調する考え方と、私人の問題だからそういう人たちが裁判制度をできるだけ自由に使うことができるようにするのがいいのではないかという基本的な考え方に大きな対立があります。私自身はそういうところに非常に興味があります。これがはつきりしているのが刑事裁判なのですが、刑事裁判の場合ははつきりしすぎていますので、もう少しそれが理論的にも問題になるようなことをやりたいと思います。て、やってきました。

ご存知かもしれませんが、日本の裁判制度というのは戦前からドイツの影響を受けています。ドイツの考え方が強く色濃く、法律にも学説の考え方の中にも残されています。ドイツの考え方というのは、特にドイツという国が比較的遅く近代化されました

で国家というものが強く出てきています。統一したのが1871年ですが、わが国もそういうドイツのモデルを中心に明治維新以後やってきましたし、民事裁判の基本的な考え方もドイツの考え方が非常に強く出ています。そういう国家の裁判制度の中で先ほどの私人の権利をどのように考えていくのかということが非常に興味があるところです。

日本の裁判制度は奇妙なことにと言うか面白いことに、戦後アメリカの裁判制度が強く入ってまいりました。基本はドイツの民事裁判制度を維持しながら、若干アメリカ的なものが入ってきた。また弁護士制度などはアメリカの影響を非常に強く受けています。私自身はそのようなところを、特に裁判所で弁護士または当事者が相互の間でどのような行為をして裁判というものにいたるのか、その過程の細かな問題を取り上げて、それを先ほど言ったような観点から分析するというようなことが研究生活の出発点であったわけです。このような

国家の裁判制度の中で私人の権利をどう考
えるか……非常に興味のあるところですよ。



(6月4日、共同教育研究施設 / 研究科長室にて)

河野 正憲 (かわの・まさのり) 教授

略歴

九州大学法学部卒業

同大学大学院・助手を経て

北九州大学講師・助教授・教授

東北大学教授

1999年から名古屋大学法学研究科教授

専門は

民事訴訟法・倒産法・仲裁法

研究をしております。幸いに比較的若いときにドイツのゲッチンゲン大学に、フンボルト財団の研究員として2年くらい行って、その後アメリカのイェール・ロースクールにフルブライトの研究員として1年行って、——学生ではありませんでしたが——両方

の体験ができて、それぞれの良い点、悪い点を知ることができました。

もう一つには倒産ということにも興味がありました。日本では民事訴訟法の学者が「倒産手続き」も合わせて講義をいたします。私が卒業したときに会社更生法の改正があり、これは研究の中では主たる対象ではありませんが、常に関心を持って勉強しているという状態で推移してきました。

その他に事件研究対象として広く関わってきたものがあります。先ほどのような国家の裁判所というのを考えるとき、これは非常に違う紛争解決の方法があるんですね。その一つはヨーロッパなどではよく使われている仲裁という制度です。これは当事者が約束をして紛争解決をするシステムですので、国の強制力を使って行うものとは対照的です。しかし約束をして仲裁人が判断を下すという意味では強制力をもつわけです。そういう意味で紛争解決のバラエティというか、そういうもの

ローマから帰ったばかりなんです



のを通して究極的には国家の民事裁判制度とはどういうものかを考えたいと思ひまして研究をしてきました。

民事訴訟法の関係では経済活動がグローバル化してくる中で、国際的な紛争の解決等々といったようなことが、非常に大きな注目を集める問題となってきました。ところが国の裁判制度を使って紛争解決するというのが国際的な紛争の中でも出発点となる考えなんです、先ほどから申

しているように国の裁判制度となりますと、ある国の主権の問題なんです。他の国にいくと違う裁判制度があるわけです。アメリカは全然違う裁判制度、ドイツは違う裁判制度、フランスは違う裁判制度というようにそれぞれが違う裁判制度を持っている。それぞれが違うものを持っているのは当然ですが、国際化が進んで取り引きが盛んになってきますと紛争も国際化してきます。国が違って裁判制度

が違う、そんなことでは困るわけです。それらを何とか調整したいという気運も出てきました。先ほど申しました仲裁というものは約束をして紛争を解決するものですから、これは国家的な規制は少ないわけです。そのため約束で解決が出来るということで国際的な紛争では仲裁という方法がよく使われるようになった。現在では国際取引引きの分野では非常に多く仲裁という制度が使われるようになりました。他方で国家の裁判制度がうまく機能しないのではないかとというような話もあって、そのことを何とかしようという話がありまして、4年位前から国際的なプロジェクトができました。最初は国際的な民事訴訟の調和、ハーモナイズেশョン、オブ、トランスナショナル、シビル・プロジェクトという国際的なプロジェクトが出来ました。これはアメリカの法曹協会とローマに本部がある「ユニドロア (UNIDROIT)」という私法の統一のための国際機関というのがありまして、そこで

のジョイントプロジェクトが出来ました。これは国際的な共同研究として企画されたものであり——ユニドロアには日本の政府からお金を出しています——今のような国際的な民事紛争の解決の新しいスキームをどのようにしたらいいのか議論し、一つのたたき台のようなものを作ろうというワーキンググループができました。このプロジェクトに私も参加することになり、4年前、2000年の5月から毎年ローマで作業をしておりまして、今年も2週間ほど前に1週間ほど行ってきたばかりです。およそ4年で一つの案を作りまして、本年5月の作業を終えた次の週の月曜日にユニドロアの機関、ガバメント・カウンスルがありまして——外交官会議なんです——そこに提出しました。ワーキンググループのメンバーは私のほかにアメリカ1人、ドイツ1人、フランス1人、イギリス1人、スイス1人、アルゼンチン1人、ユニドロアの機関の方、そしてオブザーバーとして欧州裁判所の方が常時

おいでになりました。このよう
な小じんまりとしたグルー
プで、毎朝9時から6時ま
で1週間かけまして、これを
4年かけて案ができました。

グループとして数年にわたっ
てやっていますので、しかも
朝から夜まで、12時近くまで
いつも一緒なんです。食事
の時間も一緒で互いが色々
とわかってきますし、よく理
解ができます。ただヨーロッパ
の大陸の諸国とイギリス、
アメリカ系、特にアメリカは
違う制度が発達していますの
で、それをどのような形で調
整するのかわからないという
議論があります。調整するに
してもいろいろな条約会議で
す。さらに政策的な調整にな
るので、我々はちょうど大学
でやるゼミのような感じです
ね。いろんな基本にさかのぼ
って議論してあってもいい、
こうでもない。新しいイギリ
スの立法はどうだとか、フラ

ンスはどうだとか、ドイツは
どうかとか、日本はそういう
ことでは難しい、そういうも
のを作るのはヨーロッパでは
いいが、アジアの国では無理
だとかを議論しまして、私に
とってはかなり面白い体験で
した。

またこのプロジェクトの成
果については世界中でいろい
ろな形で、ゼミとかシンポジ
ウムのような形でご意見をう
かがっています。来週のハイ
デルベルクとかリヨンとかス
トックホルムとか、それが終
わりましたら南米でもシンポ
ジウムが行われます……。本
当は私も参加しなければいけ
ないのですが、学部長室を
度々、長期に抜けるわけには
いきませんので。また来年に
なったらロンドンでのシンポ
ジウムには参加しようと思っ
ております。色々な国の法律
家の方々の意見を聞いて、参
考にしながら見解をまとめる

というようなプロジェクトで
して、従来それぞれの人が
それぞれの国で、自分の制度
ないしはアイデアを言いつ放
しのようなところがありました。
た。グループで長年にわたっ
て議論しております。かなり
の問題点やその打開策のよう
なもの、あるいは従来の考え
方で足りなかったようなところ
が出てくるところがありまし
て非常に有益でした。みな
さんそれぞれの国で代表的な
学者ですから将来的にも一緒
に研究をやるということに
約束しました。そのうちの一人
は今年名古屋大学に非常勤
講師でお見えいただきました。
ドイツ、フライブルクの先
生で昨年まで学部長でした。
その大学に行きますと学生
の質もわかりますから、お互
いに「あそこの学生は質がい
いよ」となり「じゃ俺も行って
みようか」とか、いい人がいる
から講義をしてもらったらど

うかとか、つながりがひろが
ります。私自身は非常に有益
ではないかと思っています。こ
のようなことが私がいま行っ
ていることの主な内容です。

加藤 具体的にこういう事例
があつて、議論があつて、こ
ういう仲裁の仕方になつてい
るというお話があると少しイ
メージができるかなと……。

河野 例えば、裁判をする時
に日本人がアメリカで裁判
をするという時、アメリカ法
特有の問題があるわけです。
日本では裁判所に行つて裁判
をすることになるわけですが、
アメリカでは訴えを提起
してすぐに裁判が始まるわけ
ではありません。弁護士同士
のやりとりがあります。アメ
リカの場合は、全てが判決で
裁判が終わるわけではないの
です。多くの、90%以上が判
決に至らずに終わるのです。
それは裁判の前に相互の弁護
士のやりとりがありまして、
お互いに証拠を出し合つて、
裁判所の判決にいたる前に、
これではだめだと思つたら裁
判を取り下げたり和解したり
するわけです。その証拠を出

国際的なグループで長年議論しています
と、問題点や打開策が出て有益でした。

民事裁判は国によって非常に違います。

それをどう理解し、理論化するか……

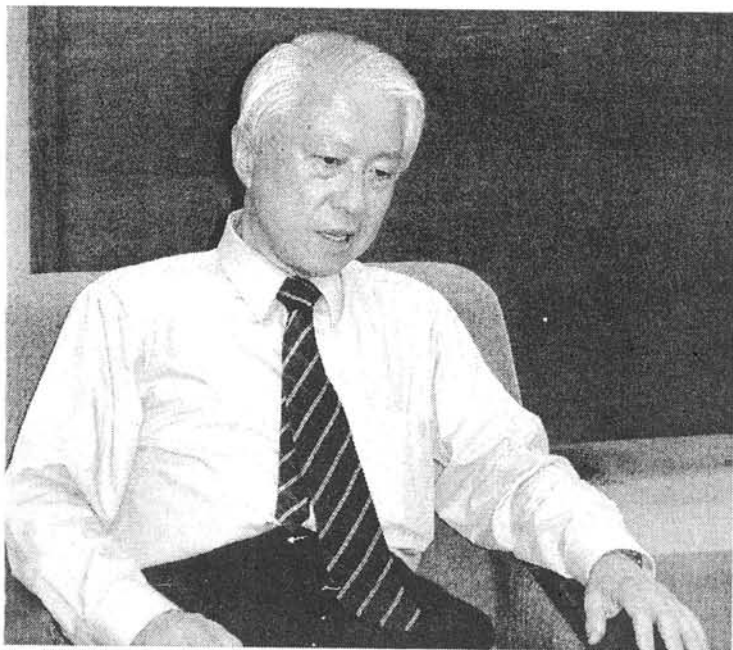
させるときにかなり強制的に出させるシステムがありまして、ディスカバリー（証拠開示）というのです。こういう制度がありますと自分に不利な証拠も全部出さなければいけないわけです。そしてそういう制度でセレクトしたものが、事件にもよりますが損害賠償なんかですと、ジュリートライアル（陪審裁判）になるわけです。これはアメリカでは憲法上基本的人権として認められています。陪審ですから陪審員が集まりまして行うわけですからだいたい1回で終わるわけです。何日も何日も拘束できないですから。非常に単純化して陪審員の前で事実を陪審員が決定して、法律的な判断を裁判官が行う、こういう制度になるわけです。こうしてアメリカの特殊な民事裁判というのができています。日本とは全然違うわけです。また、アメリカの場合、

合、損害賠償の原因になった不法行為が悪質であったり、問題であるといった時には懲罰的な賠償請求ができます。日本の場合損害賠償というのは受けた損害を積み上げた額を賠償する。交通事故でも損害が一つひとつあって、病院の費用がいくらだとか、精神的費用がいくらだとかをお金を積み上げていって損害賠償をする。アメリカはそういうものの他に、こいつのやったことは非常に悪いということになると、その10倍をかけるとかするんですね。こういうような損害賠償システムがあるわけです。それから弁護士費用にしてもコンティンジェント・フィーといって特殊な制度があります。弁護士は事件の代理を請け負うわけですが、弁護士が請け負って勝ったら3〜4割もらえる。負けたらそれは弁護士が負担する、というような形のもので

非常に訴えを提起することを促進する制度がある。あるところで交通事故が起きた、どうも車の具合が悪かったらしいということになるとみんな訴えを起こす。そうすると一攫千金というような制度があるわけです。日本の企業などがアメリカに進出するとき法律問題をきちんと理解しておかないとんでもないことになるわけです。

ドイツなどはかなり日本に似ています。訴えを提起しますと裁判所での審議が始まります。ただ証人尋問などは裁判官が尋問しますから日本とちよつと違います。日本は双方の弁護士が尋問します。これはもともとそうではなかったが戦後アメリカの制度が入ったものです。ドイツの場合、裁判官が最初から行うわけです。そうすると裁判官主導型の訴訟運営なのです。訴訟費用も勝てばいくら、負け

ればいくらではなく1件いくらになつていきますから、弁護士にとつては勝ち負けはそれほど問題ではない。前後しますがアメリカの場合弁護士費用は多くはタイムチャージです。1時間300ドルとかです。事務所で仕事をして300ドルです。でどんどん上乗せされていくわけです。「昨日6時間かかって書類を作りました」となると300ドル×6時間の請求がくるわけです。ドイツは事項ごとにいくらで請求がきます。お分かりのように裁判制度がまったく違うわけです。そういう中で日本の企業が外国で裁判しなければならなくなると大変面食らうわけです。これは世界中どこに行っても同じことです。アメリカの人たちが日本の裁判所にきて、日本の裁判所で和解の勧告を受けるとたぶん面食らうと思います。なぜかと言いますと日本の場合和解をするときに、相手のいるところにいるいろいろな言いたくない、相手の前ではつきりしたことを言いにくいのでいいところをやりたい



い。これは欧米の人たちにはアンフェアなんですね。そんな人のいないところで何言っているのか分からないということになるので。だから裁判というものは伝統とか色々なものがミックスされているわけです。日本の裁判所はパターナリズムというか裁判所が乗り出して真実を発見するという要素が強い。真実は一つだ。そのために弁護士がぼんやりしているのなら自分たちが手助けをしてやって真実

を発見する、こういうような傾向があります。ところがアメリカなどは特にそうではない。弁護士が相互でやるのが基本ですから、裁判でも裁判官がいろいろ当事者をさしおいてやるのはフェアではないと考えられています。アンパイヤーなのですね。事実については裁判官ではなくて陪審がやりますから裁判官は黙っている。相互でやりとりします。やり取りが下手ならその

人が悪いということになりますね。そこではいろいろなことしないほうがフェアで、真実が一つなのかどうかよりも、その過程の中で出てきたものが真実なんです。ぼんやりしててもそれはそれで何かがあるかもしれないが、そういう手続きがあるのに尽くさなかったあなたが悪いので

すよということになってきます。

ドイツの場合はどうか。弁護士は当事者の代理人というファクターよりも、司法を担っていく官僚という部分が強い。だから国によって弁護士さんの立場が違ったり、裁判制度も違ったり、いろいろ違うわけですね。そういうかなり様子の違うもので日本というのは特殊と言えば特殊。アジアの文化といったものがあるかもしれないが。あまり人の前で自分の意見を通していくというのは嫌われますよね。日本の裁判制度もその日本の特徴をかなり受けています。裁判官が懇切丁寧にやると、裁判官のそういう態度に対して当事者、特に弁護士がもたれかかってくる。そういうような状況もあって、「おい、しつかりせい」というような話もある。裁判所がそういうふうにかけて訴訟運営をしているとすれば、それでよいのか、などが問われています。いろいろなことがいま過渡期のようなこともあり、わが国では問われています。そ

ういうように民事裁判というには国によって非常に違います。それをどのように理解し理論化していくかというようなことがかなり難しい状況にあるわけです。そういう問題は私自身かなり興味あることとして、ドイツ、イギリスなどの昔からの友人と議論をし、さらに研究を続けたいと思っています。

民事裁判というのは非常に多様ですが、時代とともに変化します。最近はとくに経済界の民事裁判に対する批判がつよく出ています。とくに戦後アメリカの影響が非常に強いものですから、その一班が今回のロースクール問題にも出ています。

ロースクールの問題は日本の社会が非常に「法化」してきたということの一つの表れだと思います。ご承知のように日本の法律、近代的な法律を入れて百年以上経つわけですね。だけど日本の社会がヨーロッパの法制度を入れれば、すぐヨーロッパ的な法制度が根付くかというところではない。表面的にはいろんな制度

ドイツの友人が「日本にはプロイセン陸軍 がいるよ」と、写真を撮って帰りました。

が作られていきますが、先ほど言いましたように、やっぱり基本はプロイセンでした。19世紀の間くらいで新興国家で一番強いのはプロイセンでした。軍隊・産業も新興国家で出てきたのもですから。イギリスなんかは確かに先進国のモデルとしては考えられますが、なかなかあいうものを一挙に作るのには難しい。プロイセンはどうしたかといいますと、官主導でやる。新しい国ができて一挙に近代化して行くときにはある特定の目的意識をもった指導者がいてやる。ということで日本はまさにプロイセンを入れたところがありますね。これは法律だけでなく学制制度もそうで、僕がよく言うんですが、プロイセンが日本のなかに、プロイセンがなくなつた後もずっとその名残として残つたのが学生服です。学生服というのは、プロイセンの軍服です

ね。ドイツの友人が、プロイセン陸軍が日本にはいるよと、びっくりして学生服の写真を撮って帰りました。そして女子生徒はセーラー服ですからこれまた軍服ですね。それは戦後ずっと残りました。

そういうことでプロイセンの影響が強い。官主導ですから色々なものが国や官僚をもとにしてつくられていて、そこで任せておけばなんとかなる。これは特定の目的を遂行しようとするば効果的なことは確かなんです。人々の意識が多様化してきますとそういう一つのことでうまくいかない。電力が必要だからダムを作る。ダムを作ると決めたから皆それに従えと言つてもそうはいかないのが最近の状況です。いろいろな意見があるし、環境問題で驚がいてるからだめだとか。昔だつたらそんな事いつて電力不足をどうしてくれるんだという話

になります。今は必ずしもそうではないですよ。大事業がいいということについてはいろいろな意見があるし、そういうものは配慮しながら良いものを作っていくかなければならない。そうなるべくと一つの目的のために制度を作つて、あるいは人が決定をしてそれに走っていく官僚主導型ではうまくいかない。いろいろな問題、いろいろな意見を法律的な議論に高めて、議論をしながらだめならこちらのこういう制度がいいと、いろいろなことをやりながら動かしていくという多様化の時代にはいつてきています。そういう中で担い手は、法や政治というものをきちんと理解した人が果たさなければならぬと思います。

ここ数十年間の不況の中で倒産という現象がおきましたが、日本の場合長い間倒産というものを法律的に処理しな

かったのです。うやむやに処理をして、あるいは重要な産業や会社は国、政治家が関与して処理をした。そして公的資金を投入してうんぬんという話になりました。本当にそういうことでもいいのかということとは問題でして、法律的にガラス張りでフェアな形で処理をするということが非常に重要だと思えます。ところがそれをやる人がいない。法律家がいらない。日本には法律家が少くないわけです。今でも全国で2万人弱です。今でも千人を超えましたが、10年前までは1年の司法試験の合格者は5百人くらいでした。平均合格率は2%から2・5%、百人受けて2人から3人しか合格しない。最難関の国家試験などと言われている。そういう中で次第に受験生がマニユアル化してくる。受験勉強も昔からそうでしたが、最近特に顕著です。そうすると法律家としての資質が問題になってきます。法律家というのは社会のいろいろな問題を取り上げて、独創的なとか、それにあつた形で法



的に処理をして、解決策を出していくことになります。しかし、効率的に受験勉強しようと思えば、一切のことを遮断して特定の問題のために集中してそれを覚え、そして短期間に条件反射的に反応する、テクニクといえばテクニクですが、そういうことのみを学習した人が本当に法律家として良いのかという大きな問題があります。

日本の法曹の問題はいろいろあります。その中で法曹教育の充実が必要になってきます。まあ基本的には法曹人口を増やすには今の制度では十分ではないかが問われました。今の制度というのは司法試験を受けてその後、司法修習所で一年半ないしは2年の研修をして法曹になっていくというシステムです。こういう実務家養成システムはやはり

り少人数でこそできる、非常にぎみの細かい教育なので、人数を増やすと現行の制度ではではやっぱりできない。そうすると法曹人口を増やすには今までの制度自体を変えなければなりません。しかもその質を徹底的に変えなければならぬ様々な問題がでてきています。それをどういうふうにするか。一つには今までの大学教育が悪いと

いう批判も受けまして新しいものを作る、それとも一つは経済的にアメリカとの大きな関係があります。先ほども言ったようにアメリカとの関係では、このところ日本の企業は、対米訴訟では連敗に近いような結果ですから、アメリカ型の法律家が欲しいという経済界の要請も強かったと考えられます。そうしますと今までの日本の大学教育は戦前の教育の流れで、学生の自主性に任せて、よく言えば教養主義であり自主的な勉強によつて、自己の能力を高めていく、と言えはいいが、悪く言うと大学パラダイスという、何もしなくてただアルバイトだけで大学が出来る。そういういろいろな批判がありまですね。しかしそれでは良くないので徹底して変える。そうすると今ある制度とは断絶して新しい制度を入れる。アメリカのロースクールが良いということになった。

本当にアメリカのロースクールが良いかどうかは、行ったことのある人はアメリカのロースクールはこんなも

のだと実情が分かっているとしますし、私自身は笑ってしまうこともあります。かなり理念化されたロースクールです。これから創る日本版ロースクールは、今までの法学教育とどこが違うかと言うと、少人数教育である。そして今までの大学の授業は先生が一方的に講義をすることが多かったが、そうではなく双方向的、やりとりをする……。

アメリカでロースクールの教育が本当にそうかというところ、昔はそうだったといえるかもしれませんが。アメリカ映画で「ペーパーチェイス」というのがありました。ハーバード大学1年生の学生の「契約法」の講義をめぐるの、かなり面白い映画です。ケースメソッド、ソクラテックメソッドというのですが、ソクラテスが昔アテネの若者をつかまえていろいろ議論を吹かけて、自分は確たる知識を持っていて思っている若者と議論をしてみても、いろいろと基礎を問いただして、いって、実は自分は何も知らなかったということを分から

法律家は、社会の矛盾点をどう正すか、どう法律問題にするか、独創性が必要です。

せる。そういう議論によって相手の持っているものを突き崩して、もう一回考え直させる。そういうものがソクラテックメソッドの真髄ですが、そういうようなことをやりなさいということです。先ほど言いましたように今の受験生は暗記ですので、法律家の仕事に暗記ではやっぱり困るわけです。いろいろな事に対処できる能力が必要です。それを緊急に、法律の問題はいろいろな局面で、しかも緊急性をもっていますから、そういうことに対処できるように教育する。ソクラテックメソッドを考慮した双方向的な教育を行うことが必要だというわけです。そして、かなり積極的に学生に予習・復習をしてもらう。そしてそれを前提にした教育で、単にぼんやりと講義を聴くというようなことではだめだというようなシステムに変えるのだとされ

ています。そうすると教科書や資料などを作り変えなければならぬ。そういうことも進めながら、新しい教育方法に基づいた法学教育自体の再編成が法科大学院の課題です。そういうことでかなり多くの受験生、出願者というか受験資格者に司法試験も合格してもらわなければいけない。これはなかなか難しい問題で、あまりこれだけを強調しますと塾になるんで、それでは困るという問題がある。もう一つ、実務的な教育の問題で、合格者の人数が多くなると司法修習所だけでは対処できないので、実務的な問題も大学で若干やらなければならぬということになり、実務教育をやるということが入ってきた。それだけではなくある程度の先端的な問題についてもしっかりと関心を持つてもらいたい、ということがあります。そういうような様々

なことが法科大学院に求められてまいりまして、法科大学院は今までの法学教育のもつ問題性を反省しながら、できるだけ学生の潜在的に持っている能力を出していくということが最も重要だと思っています。

法律家の職業は、ある一定の知識があれば職業人としてやっていけるかというところ必ずしもそうではないんですね。少なくとも法律家というものには、お医者さんとかかなり似ているところがあります。一般的に専門的職業の場合ですとある能力がありまして、一定の専門的知識を得れば、ルーティンの活動としてやっていくことができるのですが、法律家は、社会の矛盾点をどうやって正していくかとか、あるいは法律問題に直していくか、かなり独創性が多かれ少なかれ要るわけです。非常に簡単にみえる一つひとつの事

件でもそれは千差万別です。交通事故一つとっても具体的には分からないことはいっぱいあるわけで、それをどういう形ではつきりさせるか、事実関係からあるいは法律関係についてもいろいろな問題が出てくるわけですのでそれらを考えなければいけない。家族関係にしても離婚から家庭内のいろいろな問題に対処しようとする、かなりの能力が必要とするわけですね。そういう問題は資格という形で、ボンと与えればよいという性質のものではなく、その人が生涯にわたってずっと発展させていくということが必要です。そういう基礎を法律家には養ってもらうことが重要です。その過程でかなり学問的なことが必要な場合もありますし、必要に応じてその人は研究を常になさなければいけない。ですから多くの場合法律家というのは重要な問題について、自分で問題意識をもって、自分の能力を生涯にわたって高めていくことがなければいけない職業だと思います。そういう志をもった法

律家に名古屋大学の卒業生はなつてもらいたいと思つています。

人数が増えるほどいろいろな法律家は出てくるわけです。よく言うことですが、職業人の中でも特に気を使わなければいけない職業だと思えます。伝統的にヨーロッパで、職業教育にはキリスト教の聖職者、お医者さん、そして法律家があります。医者は人の肉体・身体を健康を回復させて感謝されます。無条件に感謝されますね。宗教家ももちろん魂を救うわけですから感謝されますね。法律家はお金ですから感謝されるかどうかはわかりませんが、自分のもとと持っているお金をとつてきただけだから、感謝されずに当然のことをしただけと。もう一方の相手は損したというわけですから恨まれるだけです。こういう職業ですから大変なんです。それでも、こういうものがないと社会というものは成り立っていないわけですね。いづれにせよ今の仕組みが良いのかといういろいろな問題はありますが、弁護

士費用だとかいろいろ検討すべき問題がありますが、このような特殊な問題をもった職業だということを認識しておくことが大切だと思つています。

今井 職業人を育てるということはいいゆる法律家を作ろうということだと思えますが、一方でスクールと言われるような塾もあります。名古屋大学の職業人育成とそういった塾との違い、このところはどのようなふうにお考えでしょうか。

河野 先ほども言いましたように塾というのはなぜあるかというと、それは受験のためでしょう。基本的にはね。成果を出す。もちろん大学も成果を出さないといけない。しかし唯一の目的は塾の場合成果は受験で合格することだと思えます。言つていいかはわかりませんが、良い法律家を育てるために塾があるわけではないのです。そうすると受験テクニックが一番重要なことですね。塾として成立するためには。そういうことに長けた人が教育されることになるわ

けで、それだけを目的に合理性を追求するというのが、法律家としてのいいのかという問題がでてくるわけです。われわれは司法試験に合格しなければいけないということは最低必要なこととは思いますが、でもわれわれは法律家としての素質を重視したい。そうすると先ほどの双方向的ソクラティックメソッドなどをやりますと、こんなものは受験に役立たない。あなたが一生懸命考えてきて昨日まで覚えてきたことの根拠は何だ、本当にそうなのかと言われ、えーっと、そういう考えとこつちの考えとどういうふうにつながつてくるのというところになりますと、先生そんなこと難しいことはやめてくれ。昨日一つひとつせつかく覚えて解答が書けるようになったのに、そんなことを考えたからなくなつたということになりかねない。それでは受験としてはアウトです。でも法律というのはそんなものですよ。こちらはこう言っている。あちらはああ言っている。そうするとこち

らと合わない、さてどうするかということで、そこから始まる職業ですね。

……もちろんこれは非常に単純化した話ですよ。塾でもいろいろなことを考えられると思います。でも究極的に考えるとぜんぜん合格しない塾というのは誰も入りません。従来は大学では試験勉強ではなく、学問とはなんぞやというようなことをやりますと、試験にはダメですね。試験をパスするという明確な能力をつけることが第一義ではあるのですが、そのことと法律家としてもつべき能力についての本来の意義をはつきりさせないといけないと思います。色々な要素を考えて苦労して結論を出したなら、明確な法律論を組み立て、実現する方法を明確にすることが必要です。ああでもないこうでもないと言つて、ついに結論を出せない人も法律家としてはちよつと無理ですね。あの人のところ相談に行ったら、ああでもないこうでもないと言われて、相談しに行ったのにこつちのほうがつくなくな

名大生―潜在的に能力もっている。積極的に、簡単に割り切らず、拘ってほしい。

ということでは話になりませんね。だから法律家としての職業教育には、このような多様で高度の能力をきちつと伸ばしていく、ということではないといけないと思います。

そういうことに関連して考えますと大学生協のもつ意義も重要だと思っています。生協も受験参考書とか、もちろんそういうものも必要ですが、それだけではなく、専門書を学生にどれだけ供給できるのか、という極めて重要な役割があると思います。私はいろいろな大学に行つてちよくちよく生協をのぞくんですよ。なぜかという、その大学の学生さんが、どういうレベルかなと思つて、生協に行くとかよくわかります。学生が主としてどういう本を買っているかということが。マンガの本が並んでいるところもあるし、専門書が並んでいるところもあります。できれば売れ

ない本だけ専門書を並べてほしい。商売的にもきびしいし、先生の協力もないとだめだと思ひますが。新刊の専門書は生協には必ずくるということが重要だと思ひます。そんなこと言つてもそんな本を今の学生は買ひませんよと言われそうですが。私は法科大学院ができたら変わるかなという気がしています。やっぱり専門的なものを読む能力がないですね、多くの今の法学部の学生は。それは論文を読んでないからですね。受験参考書ではなくて、教科書さえ読まない学生が司法試験の受験生にいますね。教科書読まないで何読むかと言うとマニュアル本を読むわけですね。裁判官になった人が裁判官の執務室にマニュアル本を持って来て、先輩の裁判官がびっくりしたということはおよく聞くんですね。法学の本格的体系書なんて本は読まな

い。それは原書講読だと称しているらしいんですが。体系書を解説した本が受験生用にあるのです。極端な話、何とか説、何とか説というものが法律の場合あるわけですが、論文作成に都合がいいのはこの説を取つたほうがいい、こつちの場合はこつちを取つたほうがいい、全部を見わたすと矛盾しているわけですね。そういう状況を本人は気がついていない。非常にプリミティブな質問をするとかわからない。難しい込み入つた話をするとかよく解答をする。しかし本当の意味は分かつていない。これは司法試験の口述のときなんかによくあります。僕も経験したことあります。どの教科書にも最初に書いてある事柄を質問してみると、「えっ」という。教科書に書いてあるでしょ、教科書読みましたかといひますと、教科書は読んだことありませ

んと返事が来ました。それで通るんですから怖いんですけど。学生には難しい本は撫でるだけでいいから、図書館で1回撫できなさい、どういふ本かわかるでしょ。それで本屋で見てこんな本もあったと。高い本何千円とか1万円とかの本、飾っておくだけでもいいと思ひますが、ちよつとも読んでみようかとなりますと知的な楽しみになりますしね。ですからぜひ少しづつでもそういう本を、無理を承知で生協に常備で置いていただく工夫をしていただけるとありがたいなあと思ひます。流通の難しい問題もあります。大学生協の本屋はそこらの本屋と違うというところがあつていいと思ひますし、是非していただきたいと思ひます。

村瀬 法科大学院を用意されている先生方は熱意があつて、そういうものができると思ひますが、そこに来る、受ける人たちが今までの教育の影響下に留まつているわけですね。大学受験するということ自体が先生が言われたテク

ニツクを磨くということをやつときゆうきゆうとしてやってくるんです。その辺のギャップが……。

河野 相当にありますよ。それで私がよく言っているんですが、先ほどのような法学教育をやるためには先に人格改造をしなければいけないと思います。今までの良い学生、お行儀の良い学生というのはじつと人の意見を聞く学生でしょ。でもそれでは困るんです。自分の意見をはっきり言わないわけですから。これまでの学校教育では、例えば小学校で先生がいま言った事はおかしいと思いますと言ったら、何言ってるんだということになるんですよ。そういう人はあまり良い生徒ではないんです。今でもそうでしょう、学生のなかでちょっと小難しいこと言くと、なんかうつとおしいやつであんなやつとつき合いたくないという傾向がありますね。差し障りのない会話で、話だけが転んでいつ、お互い深いところにはあるようでないような関係に終始するのはさびしいこ

とです。ゼミなんかでそこら辺をもう少し切り込んでいくようになるのだいぶ違うのでしょうか。おっしゃることは非常に重要だと思います。だから僕も名古屋大学の学生に頑張ってもらいたいと思います。ただ、名古屋大学の法学部を出たからといって、名古屋大学の法科大学院に合格するかどうかはわかりません。全国に開かれていきますので他から入ってくれば競争率も非常に厳しくなります。だからのんびりした形でやっていると弾（はじ）かれてしまいます。そういう中から少しずつでも学部も変わってくればいいと思います。わが国の教育全体のシステムが変わってない中に、突然法科大学院という異分子が入ってきましたから、かなり先行き不透明な様子で、一番心配なのは今も言われたとおりですね。かく言う僕も若いころにくらべると、法学の勉強をしながらかなり人格が変わりました。とくに外国行つて変わりましたね。昔は引つ込み思案だったんですよ。外国に行つて

黙っているとバカだと思われまますからね。意見を何も言わないというのは。何か一言言つと、あつお前もそういうことが言えるのか、と見直される。

加藤 今の学生や大学院生に對して期待することとか、アドバイスとかありましたら。

河野 もちろん積極的に色々なことに取り組んでもらいたいですね。そしてその上で、簡単に割り切らずに拘つてもらいたいですね。そういうことの中で、いろいろと自分だけのものが身についてくると思います。時間がかかりますけどね。皆さん潜在的に能力もっているから色々なことができると思います。ゼミなんかで長くやっているとだんだん出てくるんですけどね。その過程で、皆さんが本気で取り組むように脅したりすかしたりですよ。アメリカもそうだと思うんですよ。先ほど言いましたソクラテックメソッドとかケーススタディとかがかつてさかんに用いられていました。アメリカでそれが今ロースクールの中では

以前のように用いられていないそうです。それがあまりにも精神的にストレスが強すぎるからでしょう。私もイェールのときにケースメソッド出てたんですが、隣の女子学生なんかふるえてましたね。順番に当ててきますから。私も当たると思つて、先生が僕の顔見たらきつと真っ青になつていたんじゃないかと思うけど。パツと目が合つてパツと隣に飛んだんですよ、ほつとしました。隣の学生はとんだとばつちりで……。ノート見たらきちんと訓練して出来るようにしてたんですよ。ところがパスしたんですよ。パスしたらちよつと厳しいんですよ。どうするのかなあと思つていたら先生のところに交渉に行きまして、次の時間には必ず当ててくれと……。

柴田 それは先生のいつごろの体験なんですか。

河野 私の30代の終わりです。から1983年ですね。今その先生と一緒に先ほど述べたユニドロアの仕事をしています。この間会つたとき、いまだ

生協の店で思いがけず「あつこ」にこんな本を置いてある」……と、本当に嬉しい。

もまだあの方法で授業をしてるんですかと聞いたら、今はもうやっていないそうです。前は厳しかったんです。かなりハードに訓練をしないと、学生の自主的な勉学を期待するということでは難しいところがありますね。かなり強いことも言わなければならぬ

ときもありますけど、それに耐えていくかどうかですけどね。いまなかなか耐えていきませんね。家庭でもそんなに親から叱られたりすることまれなんじゃないでしょうかね。それこそ先生から叱られたりすると始めての体験ですよ。ね。どうしたら伸びるのかは人によって



違いますから、強く言えばいいだけではなく、おだててやってみる人もいます。難しいですね。その辺の機微を先生が理解していないと。教育って本当に難しいですね。先生にもくせがあるし、学生にもくせがある、それを理解しな

がら能力を伸ばしていくようにしなければいけない。先生だけやみくもにやってもダメですからねえ。だいたいゼミなんかでも強く言わなければだめなこともあります。多くはやっぱり先生が強く出るとよくないようですね。学生が自主的にやるように仕向けるのが非常に大事です。なかなかうまくいかなくて失敗の連続なんです。ある年にうまくいったからといって、翌年もうまくいくとは限らないです。ね。だいたいそんなことやっているとだんだん人気がなくなつて……。

加藤 先ほど書籍に関わってご意見をいただきましたが、生協全体で食堂とか購買とか、印刷とかありますが、何かそのあたりでご意見を……。

河野 大変多様で努力されていていいと思うんですよ。スペースもかなり限られた中でいつも効率よくやろうと頭を

悩ませておられると思います。先ほど書籍のことです。たのは、まあ欲を言えばという話ですから。専門書を多く置けばやはりそこは商品が淀むでしょうね。でも、やはり思いがけず「あつこ」にこんな本を置いてある」ということがあると本当にうれしいですね。

今井 本日は長時間ありがとうございました。

(インタビューは6月4日、共同教育研究施設地区の研究科長室にて伺いました。聞き手は、今井名大生協専務理事、箕浦常務理事(人間情報)、加藤浦常務理事、村瀬南部書籍店長、柴田常任理事(工)。文責は「かけはし」編集委員会にあります)

新入教職員・院生歓迎生協ガイダンス

生協紹介と学内団体を紹介

ゴールデンウィーク明けの5月14日(水) グリーサロン 東山

ミーティングルームにおいて2003年度新入・転入教職員・院生歓迎生協ガイダンスを行いました。

今回は新しく来られた教職員・院生の皆さんが14名参加してくれました。まず、初めに名大生協のお店の紹介と場所の説明や取り扱っている商品などの説明を行いました。それから学内団体・サークルの紹介では名古屋大学職員組合と名大フットクラブ、空手錬成会、名古屋大学職員合唱団(特別講演の後に紹介と合唱)の活動を紹介しました。その後、特別講演として環境学研究科の福和先生に東海大地震についての講演をしていただきました。以下に講演の要旨を掲載します。講演終了後、レストラン「花の木」の懇親会料理に舌鼓を打ちながら楽しく談笑できました。



参加者も一緒になってエーデルワイスを合唱

福和伸夫先生の講演

地震！そのときあなたは？

福和伸夫(環境学研究科都市環境学専攻 教授)

東海大地震は必ず起きます。いつ起きてもおかしくありません。

東海大地震については予知のための観測が続けられています。予知できるかどうかは分かりません。名古屋に限りません。例えば、東海大地震の被害はそれほどたいしたことではないだろうといわれています。ただし、同時に起こる可能性が高い東南海地震、南海地震のほうが大きな揺れとなり、被害も心配です。



福和先生は説明を模する

地震がきたときどんな建物が危険でしょうか？ 神戸の地震の経験が教えてくれます。重い瓦を乗せた重心の高い建物は壊れやすく、南側に広い開口部を設けた建物も壊れやすいのです。足下の地盤の状態——活断層の存在や地質——も重要な要素です。

私たちは普段どこにいても、いま地震がきたら、と想像力を働かせることが大切です。室内にいれば、どこが壊れやすいか、避難路はどこかなど。道を歩いているればブロック塀の近くや全面ガラスの建物の近くは歩きたくないとか。

私は、仮にガレキに埋まったとしても命があれば救助してもらえように、笛をいつも持っています。叫ぶより早く気づいてもらえるからです。こうした日常の想像力や備えが生死を分けることになります。

2003年度生協利用者懇談会(理学部)の報告

土日営業と営業時間延長を

美味しい配達弁当など宣伝不足

総代会当日(5月30日)のお昼に、理学部の教職員・院生を対象とした懇談会を開催しました。主催者の予想を上回る24名(教職員13名、院生11名)もの参加者を得、貴重なご意見をいただきました。当日は総代会の準備で忙しい中を栗田食堂部長にも出席頂き、教職員委員会からは柴田さんも駆けつけてくれ、質問に一つひとつ丁寧に答えることができました。

良い「揚げ物ばかりのイメージがあったがこれなら歓迎!」「量も多すぎず、適当」「これで350円は安い」との評です。

院生も「美味しい」「コンビニ弁当より内容がいい」など好評でしたが、「容器のリサイクルは知らなかった」「配達弁当のことは知らなかった」「店頭販売の場所はどこ?」などの質問もあり、私たちの宣伝不足を痛感させられました。

弁当事業は苦戦を強いられています、実際には宣伝が行き届いていない、ニーズをきちんと掘り起こしていない、ということが改めて浮き彫りになりました。生協懇談会は「弁当事業」を宣伝するよい機会なので、もっと頻繁に各所でおこなうことが必要だと感じました。

・配達弁当

最初は生協から提供された弁当の話からはいりました。当日の弁当は店頭販売の350円のもので、美味しいとの評価をいただきました。特に女性からは「生協弁当は学生向きと思っていたが温野菜が多く、内容が

化↓プリペイドカードと話題が進んだとき、院生から「他大学ではプリペイドカードにプレミアがあるのでは利用率が高いが、名大生協のプリペイドカードは?」との指摘。カード販売用ベンディングマシン設置台数の問題というより、プレミアに魅力有り!という学生の意見は、今後の検討課題でしょう。

もう一つの指摘は、営業日と営業時間の問題です。理系の特に実験系は土日営業や閉店時間の延長を強く要望しています。私たち教職員も、院生の意見と同様で、土日や夜遅くの利用総数は減りますが「身近に安心して食べられる生協食堂が営業しているほしい」という根強い声をしっかり受け止めてほしいと感じる次第です。

・購買&書籍

CDや書籍を多く利用する人は割引サービスで生協出資金をすぐ回収できるなど、生協加入のメリットも含め宣伝をしました。

ここでの要望も、営業時間の延長です。理系の実験系はまさ

に不夜城の様相で、深夜まで研究に明け暮れる毎日の教職員にとつては、生協は数少ない「憩いの場」となる。これは大峰先生のご指摘とも一致するポイントです。購買の商品については、生協独自の商品、例えばエコグッズ、名大学章入りグッズなどの充実を望む声がありました。

・かけはし

大峰先生のインタビュ記事は好評でした。会場でそれはどこで読めるの? という質問も飛び、「かけはし」が院生まで届いていないこともわかりました。

・生協全般

改めて生協と総代会について説明、不景気を反映して生協の事業活動が苦戦していることを率直に伝えました。経営改善の努力と共に、自分たちの生活防衛のための協同組合であること、生協なればこそ安全安心な商品の提供という課題にも主体的に取り組めるなど、生協運動の原点に返った視点と事業展開が益々重要であることを認識しました。

・食堂

食堂の混雑問題→レジの効率

名大祭有志企画

「ミニ平和資料館」を終えて

今年の名大祭に、有志企画として、「ミニ平和資料館」を開催しました。

この企画は、平和憲章委員会の主催ということでしたが、事実上は生協の教職員委員会と生協学生委員会のUNICEF班、名大院協のみなさんの頑張りによって実現できました。

「ミニ平和資料館」は、7日、8日の両日、共通教育棟42番教室にて実施。ユニセフ関連とイラク戦争の写真パネルを展示しました。共通教育棟東のテントサイトではUNICEF班が物資販売を行いました。ここでも「ミニ平和資料館」の宣伝をしてもらい、名大祭実行委員会が企画してくれた「ゆめクイズ」やスタンプラリーの効果もあって、総観覧者数230名以上を得ることができ、この種の展示企画としては大成功だったのではないかと思います。

今回は、展示以外に「インターネット署名」と「DVDミニシア

ター」を企画しましたが、こちらの方は付け足しの様になってしまい、成功したとはいえません。特に「インターネット署名」の方は、3台のパソコンによってインターネットの署名サイトを探索できるようにし「イラク戦争反対や自衛隊の派兵反対などの賛同署名」を呼びかけることが狙いでしたが、接続状況が悪く、失敗におわりました。これは今後の反省材料です。

生協の学生委員会UNICEF班とは、今回初めて共同で展示等を行い、募金合計12,072円、物資販売52,510円を得ることができました。特に、ユニセフに提供して頂いた「地雷」の模型は、「ミニ平和資料館」に箔が付いた感がありました。共同の取り組みとしては、とても良かったと思います。

DVD鑑賞では、「チョムスキー9・11」がやっぱり素晴らしい！もう一つ用意した「カランダール」は戦争の悲惨さが十

分伝わってきましたが、ちょっと観念的で難しい内容でした。

名大祭はサークル発表中心の「お楽しみ企画」が多く、一般の参加者もそれを楽しみに来ていると思いますので、私たちの「ミニ平和資料館」は異色な企画だったと思います。従って、参観者から敬遠されて、来場者が少ないのではないかと心配していました。しかし、名大祭実行委員会が用意してくれた企画「ゆめクイズ」は観客獲得に大きな力となりました。

「ゆめクイズ」は、共通教育棟で行われる有志企画の参観者をより多く獲得するためのポイントラリーのような企画で、すべてのポイントにある設問に答えることで、クイズの答えがわかるような仕組みになっています。私たちの設問は「平和憲章ができて今年で何年？」というもので、当然「ミニ資料館」まで足を運ばないと答えることができません。会場の一番禺の黒板に解答を大書きしておきましたが、これだけを見て部屋を出て行ってしまう人はほとんど見受けられず、みなさん足を止めて資料

を見てくれたことに正直驚きました。

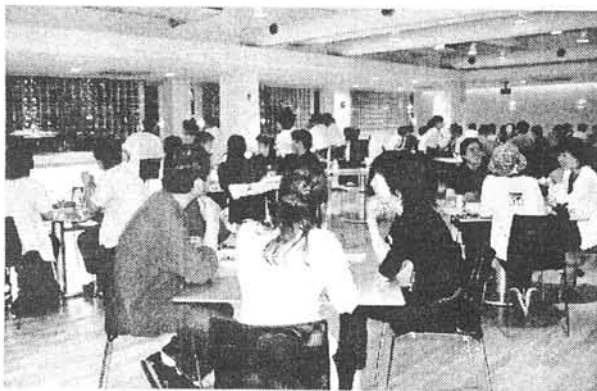
「ゆめクイズ」の解答を求めて来場した家族連れが、地雷の模型やイラク戦争の写真を見て足を止め、しばらくすると、親が子供に静かに語り始める・・・そんな姿を何回も見ました。今回の企画は、彼らの目にとまっただけでなく十分な価値があったと思います。もちろん、若い学生さんも熱心に見てもらえたと思います。

このように、名大祭実行委員会の企画にも助けられ、時の話題であるイラク戦争を真正面から捕らえ、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴えた「ミニ平和資料館」は、私たちの目的である「平和憲章」の精神を十分に伝えることができたのではないかと思います。

最後に、「ミニ平和資料館」成功のために力を貸していただいた、名大祭実行委員会の皆さん、生協UNICEF班のみなさん、そして、平和憲章委員会のみなさんに、改めてお礼を申し上げます。
(河合利秀)



お店の外でもくつろいで食事が出る。



夜9時を回っても超満員。

京都大学生協施設見学と活動交流会 夜10時まで営業のレストラン

そんなお店があったらいいな

京都大学生協教職員委員会から名大生協教職員委員会に活動交流の要請があり、今回初めて2生協間での組織活動交流を行うこととなり、春は名大が京大を訪れ、秋には京大を名大にお招きすることとなった。折角京大生協を訪れるのであれば、平日の生協のお店を見学しようと休暇を取って6月13日・14日にかけて京大生協施設見学と委員会の活動交流に出かけた。

8時30分に、北部厚生会館に集合し乗用車で京都に向かう、名古屋高速から名神高速を利用して11時過ぎに京都大学に到着した。京都大学は吉田キャンパス、宇治キャンパスと今年度から移転開始する桂キャンパスがあり、今回は自然科学系研究所のある宇治キャンパスと全学部が集中する吉田キャンパスの生協施設を見学した。購買・書籍・旅行の販売系では、西部生協会

館ルネが1フロアーにまとまっていた、その広さには驚きであった。書籍は文理合同なので分野の違う本も見つけやすく、CDコーナーも充実している。旅行センターは国内と海外に窓口が分かれ銀行などにある受付整理券の発券機があり、自分の順番になると館内放送で呼んでくれるので、待ち時間に本を購入することもできる。

食堂は宇治キャンパスの食堂と吉田キャンパスにあるいくつかの食堂を見学した。吉田食堂はお昼のみの営業であるが、他の食堂は夜9時10時までの営業であり、研究者にとっては非常に便利である。京都大学の正門を入ったところにこの5月17日にオープンしたカフェレストラン・カンフォーラがある。元公用車の駐車場であったところを改装してできたところであるが、朝8時からモーニング、お昼のランチ、夜のディナーと一日を通して低価格で利用できるお店となっている。食器から価格まで大学からの強い要請があり、ワンランク上の「くつろぎと癒しの空間」を醸し出していた。ランチは500円が主流でドリンクを付けても600円で利用でき、夜はビール、地酒、ワインなど幅広い品揃えで楽しませてく

れる。料理はイタリア料理がメインであるが味は生協とは思えないほど美味しく、この価格でフルサービスの店とは考えられない。席数は外のテーブルも併せると100席あり1日の利用者は500人。平均利用高が千円ということなので夜の利用が多いことがうかがえる。この日も活動交流会が終わって、夜9時から利用したが満席状態であり、夜10時までの営業が喜ばれているようだ。名大にもこんなレストランがあればとつくづく羨ましくなってしまった。

活動交流は夜の営業のない吉田食堂の職員専用リザーブルームで行われた。京都の委員会は教職員の総代を中心にして最近出来たばかりのようで、組織だった活動はこれからのようであるが、生協総代の選出数や企画への参加者の多さには学ぶところも多い。大徳寺でのライトアップ夕食会には56名、犬山の霊長類研究所見学と犬山祭り鑑賞の旅に39名、日フィルの昼休みコンサート(60名)、図書館ホールでのツイターコンサート(80名)など企画も多彩であるが参加者の多さには驚きである。総代を中心とした活動が出来ているので参加者も多いのではと思う。

(箕浦昌之)

北部生協まつり (6月17-20日) 教職員委員会企画報告

第29回生協まつり献血結果

97名のご協力ありがとうございました。

今回協力をお断りした方が33名と多くいました。理由は薬の服用中や比重不足でした。特に女子学生の方で鉄分不足が目立ちました。名大生の場合400mlの協力者が89%と多いのが特徴です。2日間で97名のご協力をいただきました。

映画上映会

「ハリーポッターと秘密の部屋」に5名

昨年のヒット作品だったのですが宣伝不足によるものなのか参加者は過去最低となりました。

献血結果	受付者数	献 血 者		
		200ml	400ml	200ml 換算
6月18日	66	5	39	83
6月19日	64	6	47	100
計	130	11	86	183

ボカシは9個

生ゴミの有機肥料化促進剤としてのボカシの販売普及は9個でした。

ビアガーデン

6月19日(木)午後5時30分開店のビアガーデンをゆ〜どんで開催。参加者は40名で、毎回楽しみにしている方もいて、8時閉店まで多くの方が利用されました。宣伝不足の割には利用が多く、安くて手頃な飲み屋に対する潜在的な要求があるのでしょうか。

教職員委員会活動日誌 (2003年5・6月)

月	日	事 項	場 所
5月	6日(火)	5月度常任理事会	ゆ〜どん
	8日(木)	総代会テーマブース打合せ	ゆ〜どん
	9日(金)	5月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん
	14日(水)	新入教職員・院生歓迎生協ガイダンス	グリーンサロン東山
	19日(月)	5月度理事会	フレンドリィ南部
	22日(木)	総代会事務局打ち合わせ	ゆ〜どん
	23日(金)	5月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
	29日(木)	総代会リハーサル	南部食堂ホール
	30日(金)	総代会議案説明会(理学部)	理学部物理会議室
	30日(金)	第75回通常総代会	南部食堂ホール
6月	3日(火)	名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山
	4日(水)	法学研究科長インタビュー	法学研究科長室
	4日(水)	03年度役員学習会・懇親会	フレンドリィ南部・とりでん
	7日-8日	名大祭ミニ平和資料館(平和憲章委員会主催)	共通教育棟42番教室
	9日(月)	6月度常任理事会	ゆ〜どん
	11日(水)	6月度第1回教職員委員会・資金運用検討委員会	北部食堂ホール
	12日(木)	役員報酬検討委員会	ゆ〜どん
	13日-14日	京都大学生協見学&教職員委員会活動交流会	京都大学生協
	17日-20日	北部生協まつり・18-19日献血、19日ビアガーデン	北部厚生会館および周辺
		18日「ハリーポッターと秘密の部屋」上映会	
	21日(土)	東海地域センター活動交流会	南部食堂ホールなど
	23日(月)	6月度理事会	南部食堂ホール
	24日(火)	京都大学生協見学報告会・激甚災害対策検討会	ゆ〜どん
	25日(水)	資金運用検討委員会	ゆ〜どん
	26日(木)	6月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
	30日(月)	役員報酬検討委員会	ゆ〜どん

新ファイルド・ノート ― その77 ―

岡

崎

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

今年の五月は雨が多く、晴れ渡った五月晴れが見られなかった。一転して、六月に入ると、晴れ間が続いた。幸いなことに名大祭の間も晴れ間が広がった。

かつて私が助手から講師になった時、一年生向けの授業をたくさん受け持つようになった。名大祭期間中に大学構内を歩くと、あちこちから声が掛かり、テントを張った模擬店で生ビールを飲んだりしたものだ。

話は四月に遡って、四月二十九日のことである。私は恒例の岡崎将棋祭りに出かけた。岡崎市の後援で、往復ハガキで申し込みをすると、当選しましたという通知が担当の係から届いた。私はこれで三回目であるが、なかなかの人気で何倍かの申し込みがあるという。幸運にも、私は

一度も外れていないのである。

岡崎城を取り囲む岡崎公園は、名古屋城と違ってわりとごちゃまわりとしている。そのわりには、地形や景観が変化に富んでいて、私は気に入っている。桜の季節に、茶店に上がって座敷から見る風景は風情がある。茶店は少々けばけしいが、開いた番傘などが飾ってあったりして、江戸情緒が満喫できるのである。

今年で十回目を迎えた岡崎将棋祭りは、谷川王位と羽生竜王という豪華なメンバーが顔を揃えた。このような将棋祭りが開催されるのも、岡崎市出身の石田九段の骨折りによる。出場棋士は、谷川王位と羽生竜王の他に中井女流名人と矢内女流三段、そして東海出身で最近昇段した杉本六段、さらに石田九段の弟

子の勝又五段および中田章道六段に石田九段を含めて総勢八名。対局は明日のお楽しみである。

まずは、前夜の二十八日に、名鉄岡崎ホテルの十階で開催された前夜祭の話から始めよう。私は始めてこの前夜祭なるものに出席したのであった。谷川王位と羽生竜王という二人の偉大な棋士に同時に会えるのだ。

名鉄岡崎駅からタクシーに乗り、名鉄岡崎ホテルに向かう。歩いても行ける距離なのであるが、不整脈が出始めたので、用心をした。運転手にだいぶお疲れのようで、と氣遣つてくれる。

ホテルの十階の窓から外の夜景を見ると、岡崎城が小さく見える。岡崎城の近くのホテルは夏になると屋上でビアガーデンを開くのだが、そのホテルがずいぶんと低く見える。いつだったか夕暮れどきにそのホテルの屋上のビアガーデンで生ビールを一杯ひっかけたことがある。明るいうちは岡崎城の姿は目に入らなかったのに、暗くなるにつれて岡崎城が存在感を増して来るのであった。

私が会場に着くと、ちょうど棋士たちが会場に入場するため廊下に並んでいる。私は彼ら入場した後をついて入った。女性の総合司会者が棋士の紹介をし始める。大広間が満員である。私は不整脈が始め、立っているのが辛くなる。谷川と羽生という偉大な棋士を目の前にしているというのに何ということか。やがて石田九段が乾杯の音頭をとる。ビールを飲むのは危険だ。誰かに注がれて乾杯をする。せめて谷川と羽生には、ひと目間近で会わなければ。大勢の人がすでに二人を取り囲んでいる。私は仕方なく料理をつまむことに方針を変更する。調子はよくないが不整脈は治まったようだ。えらい、ビールも飲んでしまえ。刺身やら寿司やらをつまみながらビールを流し込むと、少し度胸がすわる。私は谷川浩二王位のそばに並ぶ。名刺を交換する人、色紙をねだる人。谷川王位は毛筆で色紙を書いている。それだけ時間が掛かる。アナウンスでは色紙は最後に貰えるようなことを言う。あとで分かるのだ

が、色紙を貰える人は抽選によるので、皆が貰えるとは限らない。私は、ずいとお出で、谷川王位に挨拶をした。棋力はどのくらいか、と聞かれてアマの初段だと答える。名刺を渡しながら、NHKのテレビ将棋が楽しみだと伝える。娘が作ってくれた手作りの名刺だ。それには私の研究対象であるどんぐりがカラーで印刷されている。王位も名刺を取り出しながら、いろいろな楽しみ方がありますからね、と慰めてくれる。アマの初段というのは、プロの高段者から見れば赤子のようなものだ。谷川王位は勝負を離れると気が優しいことで有名だ。私の棋力の低いことを氣遣ってくれたのである。私が、最近寂しいですねと言ったせいか、王位は一瞬、とまどいと苦笑いの混じった複雑な表情を見せる。それは最近あまり王位が勝つことが少ない、ということを意味している。後で、失礼だったかなと思ったが、そのときは私も少々酔いが回っていた。王位と離れたあと、羽生善治竜王に近づく。羽生竜王は色紙を

書くのは断っている。竜王は割り切れる人だ。二人とも将棋界を背負っているから、普及のためには労力を惜しまない。だが、谷川は色紙を書くことを断れないのに羽生は断れる。この違いは明日の勝負を象徴しているぞ、と感じる。案の定、翌日の勝負では羽生が勝った。ところで、私はもう一枚の名刺を差し出し、羽生竜王に挨拶をした。羽生竜王も名刺をくれた。まだ、名人戦が始まったばかりで、羽生竜王は挑戦者なのである。名人戦、頑張ってください、とだけ言ったが、羽生竜王は泰然として、竜王がええと答えたかどうかは、今となっては、定かではない。矢内女流三段は、まだ若くて可愛い上に美人である。体調が限界に近かったため、私は言葉を交わすのは諦めた。二人の名人とまがりなりにも言葉を交わし、名刺を交換したことで満足し、早めにホテルの寝室に消え、大事をとってすぐさまベッドに横になった。

翌日は晴れ、爽やかな朝であった。岡崎公園は人で溢れて

いた。対局は能楽堂で行われる。能や狂言を演じる舞台に将棋盤が置かれ、我々は扇型に取り囲んだ石段に腰を下ろして観戦するのである。もちろん将棋盤上の駒の動きまでは見えない。そこで棋譜の読み上げ、と言って棋士が一手指すごとに、それが読み上げられるのである。そして、石田九段が聞き役を従えて解説をするのである。

谷川王位と羽生竜王の対決の前に、いつもお好み対局が催される。これもまた楽しみなのである。今回は矢内女流三段と勝又五段、中井女流名人と杉本六段とが行われた。男性棋士には一手十秒という指し手の短いハインディが与えられた。そのせいか、勝又五段が矢内女流にあわやというきわどい場面で勝った。杉本六段は中井女流名人に完敗を喫してしまった。中井女流名人はこのところきわめて好調である。

案の定、私の予想どおり、羽生竜王が谷川王位に勝った。僅差である。羽生の頭脳がどのようなものであるか計り知れない。

谷川とてそれに近い恐るべき能力である。そのような知的な戦いを行っているのは人間であり感情や欲望の中にある。それを抑え、とてつもない精神の集中の後に勝負という決着が着くのである。その興奮がたまらない。

三年前のことである。極度のストレスがたまり、体調を崩した頃のことである。女流棋士との親睦会という催しに参加したことがある。あこがれの山田久美女流三段も間近で見ることが出来た。対戦したのは藤森奈津子女流三段であった。彼女はテレビの将棋番組での司会者もしたことがある。今では結婚しているが美人であることには変わりがない。その着物姿も艶やかであった。藤森三段に、飛車と角を落として貰うという大きなハインディにもかかわらず、私は負けしてしまった。藤森三段の美しさにぼおーっとしてしまったためではない。心臓の鼓動に異常をきたしてしまったのである。当時は息抜きの将棋でさえも心臓が耐えられないほどだったのである。

－ 私 の 百 名 山 －

会津駒ヶ岳 (2132m)

中條 保 (農学部)

はじめに

日本国内には茶白山や駒ヶ岳、『〇〇富士』など身の回りにも多くの山が知られている。この駒ヶ岳も代表的な名前である。本誌246号では越後駒ヶ岳を紹介したし、先月号の247号では平ヶ岳を紹介した。名前の通り起伏に乏しい山頂は平らな山であるが、朝の4時に出発して、夕刻の16時30分に帰着したので12時間は要する長い道なのであった。その翌日に、この会津駒ヶ岳に登って、その日のうちに東京に帰る予定である。しかも青春切符で帰る予定なので、0時までには東京に帰着しないといけない。アクシデントは許されない時間との勝負である。

会津駒ヶ岳の所在地は

その名のごとく福島県にある。それも奥会津、県の西端部、新潟県との県境にある。あの尾瀬の近くだと言えは判るだろうか。尾瀬の北隣り、檜枝岐(ひのえまた)の集落の直ぐ北側に聳えている。公共交通なら会津若松、会津田島方面から、会津高原を経

2度目の休憩で山頂部分が現れる。
気持ちの良い草原と椅子、テーブルがある。

てバスで入る。檜枝岐の集落には、村営の温泉があり、旅館、民宿が多い。尾瀬への登山基地なのである。駒ヶ岳は集落の中心街を流れる本流の左岸を西に1

kmほどの小高い丘を曲がりくねって上ると、20台ほどの駐車場があり、そこから階段状の登山道が案内してくれる。



前日は温泉に浸かる

今回の登山は、温泉がメインに成りつつあった。前日は銀山平温泉にゆつくりと浸かって、平ヶ岳に登れたし、下山すると檜枝岐にも温泉があるという。一車線の狭い国道を対向車に注意しながら、何とか明かるうちに檜枝岐に到着して温泉に入りたいたいものと、夕闇迫る山道を慎重にも急ぐ。途中、御池や尾瀬への入り口の駐車場がよく整備され、マイカー規制のための駐車場になっている。一時間かけて檜枝岐温泉に到着する。雨は本降りになっていた。18時ちょうどに車を駐車場に止めて、着替えを持って温泉に飛び込む。銀山平より少し経過しているが、大きな木造の立派なお風呂だ。村は思ったより大きな集落を成している、民宿や旅館が多く、尾瀬への登山者でにぎわいを見せている。東武鉄道「会津田島」からバス便が整備されていて交通の便も良いという。途中の酒屋でポカリスエット1・5リットルを購入して登山口を尋ねる。

山麓駐車場にて車中泊

19時、役場前を通過し、国道を左折すると川に沿って蛇行した舗装道路が登山口まで続く。手前に未舗装の駐車場が右手に現れると登山口はすぐだ。左にカーブする右手のふくらみの部分に宇治市の彼（先月号で紹介した人）が車を止めていた。その横に彼が私を迎え入れてくれる。登山道の階段のすぐ前（下）だ。激しい雨は止みそうにないので食事は車内で火気を使わずに簡単に済ますしかない。20時、ラジオを聞きながら就寝するも、明日の天気が気になり眠れない。それでも23時に目覚めて、外を見ると23夜の月が樹林の間に煌々と輝いている。ようやく安心して眠りに就く。午前1時、星も輝き晴天の兆しに心が躍る。

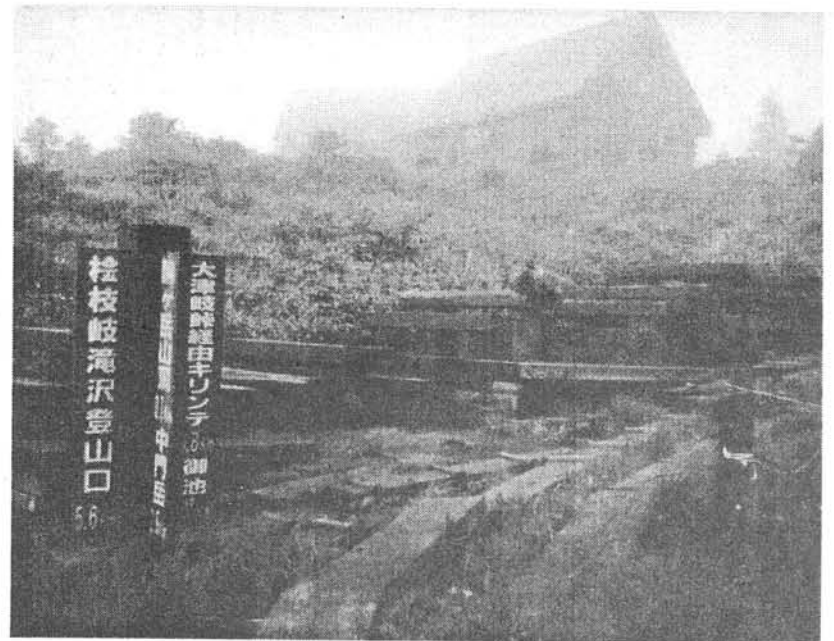
いよいよ会津駒へ

午前3時だ、急いで起床し、身支度を整える。雨具、貴重品、カメラ、ラジオ、食料は、赤飯、缶詰、ジュース、あんみつ、お菓子を持参。30分後、暗闇の中をランブを付けて出発する。今朝、車中

で食べたパイン缶を戻しそうになる。ミズナラとブナの急登が連続する。雨上がりで霧が深い。4時30分、カップ2杯のポカリスエットで小休止。ヘッドランプをしまう。標識と距離が明示されていて分かり易いルートだ。5時55分、2回目の小休止。山頂へ1・2km。真新しい休憩所は、長椅子4脚と広いテーブルが配置されている。麓は晴れていたが、山頂付近はガスに包まれている。ここからは樹林帯が切れて、池塘の多い湿原やお花畑に入る。強い風が時折雲を追い払い、上空の青空を見せてくれる。休息していると寒く、歩いているとちょうど良い。

駒の小屋

6時25分、緩やかな草原を木



山頂への分岐で、山頂小屋が現れる。右手に池がある。

道に沿って登り詰めると、眼前に小屋が現れる。その手前に10脚ほどの大きな木製机とそれらを取り囲むようにして長椅子が並んで置いている。右手に大きな池があり周囲はお花畑で白やピンク、黄色などが美しい。山頂へはその池伝いに緩やかにお花畑の中を登ってゆく。コバイケイソウ、ハクサンイチゲ、チングルマ（ここでは咲いている。終わっているものもある）がきれいに咲いている。地上の楽園だ。

山頂の大きな標識



会津駒ヶ岳

6時40分、木道に導かれ右折して、急な階段状の木道を5分ほど登り詰める。2132mの山頂に到着する。3時間ほどで到着したので、意外だった。山頂は樹林とクマザサに囲まれ大き

な新しい標識が立っていて、周囲が見渡せるように刈り込まれている。今日はガスって遠くの景色が見えないが、周囲の山の案内も親切だ。あんみつとポカリスエットでエネルギーを補給する。20分間の休憩の後、山頂と別れ下山することにする。階

段を下り始めると宇治の彼の人

が登ってきた。5時に出発したと言うから2時間で登ったことになる。私は3時間かけているから、相当な脚力である。階段を下りきると水戸から来たという2人の中年女性に会う。小屋の人が中門岳から回った方が楽だと教えてくれたから、そちらに向かうという。山では登り優先であるから下りにすれ違いながらの下山は疲れる。早朝からの出発なので、ほとんどの人はこれから登ってくるので交すのに大変だ。200人ほどの登山者とすれ違ったのだろうか。中でも愛知からの39人が最大規模だった。昨夜豊橋をバスで出発して、今朝7時に登山口に到着して登ってきたという。中高年パワリーの一行だ。まさに百名山は巡礼化しているといえる。

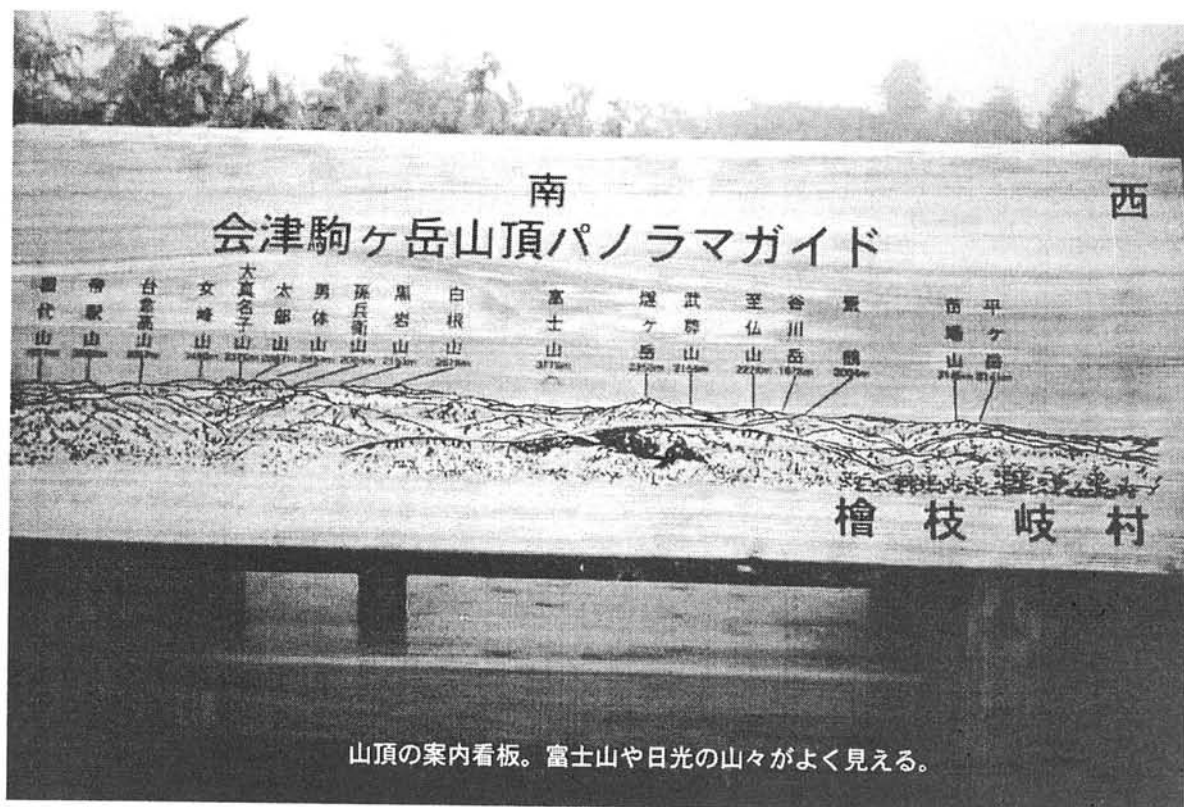
登山口を下山する

8時40分、未だ登ってくる人がいる登山口に到着する。晴天で相当の汗をかいたので、靴を脱いでズックに替えて、昨夜利用した檜枝岐温泉に急ぐ。9時

ちように檜枝岐温泉に到着し、着替えを持参して湯船に急ぐ。三山(越後駒、平ヶ岳、今日の会津駒)を登り終え、達成感に満ちて朝風呂に浸かるときの気持ちの良いこと。極楽浄土の気分である。露天風呂にも入り、十分にリラックスして体をほぐす。湯上がりに炭酸入りのジュースで喉を潤す。1時間休んで出発する。

沢筋で昼食

夕刻のJRの出発時刻までは、未だ十分な時間があるので、途中、銀山湖に流れ込む沢筋の脇に車を止め、まだ11時だが昼食にする。堰堤から滝のように豊富な沢水が落ち込み、真夏の太陽を避けるような樹林の陰で昼食にする。ぬれたものを洗い、乾かし、豊富な水で残りの食料をふんだんに使った贅沢な昼食をする。電車でも荷物を少しでも軽くしたいし、食料は捨てたくない。少しいく時間かけて食べる。少し仮眠して余裕を持って13時に出発する。



山頂の案内看板。富士山や日光の山々がよく見える。

登山口の木製階段。登山届けのポストがある。



レンタカーを返す

山並みの緑の中を快適に走り、田園地帯から国道に出て、来るときに立ち寄り、食料を購入したスーパーへ再度立ち寄り、ゴミ類を返却し、夕食に鰻丼がおいしそうなので購入する。果物もおいしそうなのでブドウを購入する。これで今夜の食料は大丈夫だ。六日町の国道沿いのガソリンスタンドで満タンにして、レンタカー会社に車を返す。

駅までは、その車で送ってくれた。

21時東京着

六日町駅発、17時ちようどの快速マリンブルーくじらなみ2号で新前橋まで行き、高崎、赤羽、新宿と乗り換えて今夜の宿、阿佐ヶ谷のホテルに21時に到着する。4日ぶりの布団の上での睡眠は、感激である。

イラクに自衛隊を

送ってはならない!

去る6月7日、8日、平和憲章委員会(全学会、名院協、職員組合、生協理事會、生協労組)は名大祭の有志企画で「ミニ平和資料館」を開設、2日間で230名以上の来場者を得ました。生協学生委員会のUNICEF班とも協力して、イラクの子供達を救おうとカンパや物資販売を行ないました。UNICEFから地雷の模型を借りることができ、迫力のある展示とすることができました。

楽しい企画が中心の名大祭に、イラク戦争の悲惨な写真パネルをみせられて、そっぽを向かれるかと思いましたが、ちよつと逡巡した後におそろおそろのぞ

き込んで、とうとう最後まで見ていく学生さんがたくさんいました。家族連れで来た父さんやお母さんの戦争の話しを神妙に聞き入る子供達の真剣な眼差しもありました。

アルジャジーラ(独立系衛星放送テレビ局)のカメラは米・英従軍カメラマンばかりの欧米報道に比べ、市民の目線で捕らえているため、悲嘆にくれるイラクの人々の姿が鮮明に映し出されていました。写真の奥から見つめる視線は、私たちに平和を強く訴える力がありました。

イラク戦争で犠牲になった非戦闘員(民間人)を数え、世界に

公開しているホームページ、「イ

ラク・ボディ・カウント」(<http://www.iraqbodycount.net/>)によれば、少なく見積もっても5千人以上の子供・老人・女性を含む人々が犠牲となっています。

「正確無比なピンポイント爆撃を多用したので民間人の被害は最小限に収まるはずだ」と述べたアーミテージ氏に問いたい。どうして病院や学校やテレビ局や水道施設が攻撃対象となつているのか? これらはたとえ戦争中であつても攻撃してはならないと、国際法に固く禁じられているにもかかわらず・・・です。そして、B1爆撃機によって大量に投下されたクラスター爆

弾(空中で多数の小型爆弾に分かれて、投下された一帯をくまなく破壊する残虐兵器、不発弾が多いことで、戦後処理も地雷と同様大きな問題を抱えている)は、その不発弾によって今もなお、犠牲者が増え続けています。それも、好奇心旺盛な子供達が一番の被害にあつていることを考えると、その非人道性は明らかです。

最近のニュースは、米・英のイラク戦争が虚偽の情報によつて引き起こされた「間違つた戦争」だったのではないかという疑惑を、次々に伝えています。

イラク戦争は、米英が大量破壊兵器を廃棄しないイラクを、武力によつて武装解除すること・・・だったはずで。ところが、戦争が終結していつまでたつても、一向に「大量破壊兵器」が見つかったという報道がありません。それどころか、査察を続けていたブリックス氏は「イラクには大量破壊兵器など存在しない」というのが本当らしいと言ふことです。

米高官が語ったところによれば、CIAの入手した資料からはイラクが大量破壊兵器を持っている証拠は何もなかった。「このようなものはもつとセクシーなほうが良い！」と、虚偽の内容を付け加えた、というものでした。虚偽の内容をセクシーと呼ぶ横柄さには恐れ入ったのですが、このようなことを平気で言う凶々しさにも驚かされました。このような、人間の皮をかぶった悪魔のカウボーイが米国政府を牛耳っているのかと思うと、背筋が寒くなります。

結局のところ、米国が、言うことを聞かなくなったフセインを打倒するための戦争で、あわよくばイラクの石油資源をフランスやロシアの手から奪い、復興事業で米ゼネコンを喜ばせようというものでした。そして、まんまと成功した。これがイラク戦争の真実なのと言うことです。こんな無法なことを、私たち人類がいつまで放置しておけば、世界は欲望と混乱の極みとも言えるべき、終焉を向かえるしかなくなってしまう。

しかし、もう少し違う見方をすると、戦争反対の運動が世界中に広がり、インターネットで結ばれた反戦平和の運動がこれほどの広がりを見せたことはかつてなかったことであり、少なくとも国連で米・英を孤立させた力は名もない市民の戦争反対の声でした。

2月15日の世界中を駆けめぐった反戦デモでは、英国ロンドンのハイドパークなどに集まった50万人を超えるデモ隊に、第二次世界大戦勝利のパレードでもこんなに人は集まらなかった！と古参記者が絶句し、イタリヤの各都市で何万人という集会が次々と開催され、100万人以上の大パレードとなるなど、全世界で1000万人を超える大反戦運動となりました。

こうした運動は、ローマ法王までも動かし「宗教の違いを超えて戦争反対」の声が広がりました。イラク戦争賛成の国の政権党が国政選挙で大敗北を喫するなど、これまでにない大きな反戦のうねりを作り出しました。

こうしたうねりは、国連安保理において経済的支援をちらつかせて賛成の説得に走り回った米英の期待を見事打ち砕き、彼らの戦争を正当化することを許しませんでした。

結果は、残念ながら、米英の強引な攻撃を止められませんでした。だが、ここに私たちは新しい可能性を見ることが出来ます。戦後、ブレア首相は次々と明るみにでる「虚偽情報による戦争」によつて、「私たちは騙された！」とマスコミや英国世論だけでなく労働党内部からも厳しい批判が噴出、退陣寸前まで追い込まれています。

私たち一人ひとりが発する声は小さくても、♪たくさん集まれば大きな力になる♪ 色々細かい違いを乗り越えて、戦争反対の一点に力を合わせることであれば、米大統領や英国首相を権力の座から追い落とすことも可能であるということ、今回の事態は私たちに教えてくれたのです。

さて、視点を日本に移すとど

うでしょうか。

わが、小泉内閣は、国民の平和を望む声を無視して、米国の補給に海上自衛隊を送り、イラク攻撃の中心となつて空母にも給油しました。それにも飽きたらず、国会会期を40日も延長して、イラクに自衛隊を送るための法案を審議する、もうこれはファシズム以外の何者でもありません。

戦闘部隊への補給や、戦争地帯での自衛隊の活動は間違いなく「戦争行為」です。私たち日本の国民は「戦争行為」に合意してはいません。もちろん、日本国憲法違反です。

イスラム圏の人々は日本を友人だと思っていました。ところが、今回の「海上自衛隊参戦」によつて敵対国となり、進駐軍に加わつてイラク国民を威圧するのです。私たちは、イスラム圏から来ている留学生達に、この事実を、なんと説明したらよいのでしょうか。

(理学部 河合利秀)

奇貨おくべし

今年、平成15年4月30日から、5月4日までの5日間台湾、台南の南台科技大学を訪問し、日本語の文字や表記法について講演をし併せて日本語学科の先生と学生と交流して、5月4日帰国した。

訪問前から、中国広東省で昨年秋季に発生し、今、中国の広東省と北京、香港で猛威をふるっている新型劇症肺炎SARSが不気味だった。事務官はしきりに、行くのかどうかを尋ねてきた。勿論特別の支障がない限り、前からの約束だから訪問するのは当然だというのが私の答えだった。

先月初め頃、台湾では未だ大したことはなかったが、私が行く頃から、台北で病院が閉鎖されたとか、死亡者が出たとか、芳しからぬニュース。行きのジャンボ飛行機は、ガラガラ

客を乗せて飛んだ。半数ほどの客が物々しいマスク姿、それを見ただけで何となく薄気味悪い。ほとんど毒ガスマスクに近いような物までしているのが居る。何という神経だろう。

私の行った台南は穏やかだった。マスク姿はほとんど見られなかった。ところが、5月3日を期して台湾国内の全ての航空機の乗客はマスク着用が義務づけられ、飛行機に乗るにはまず、マスクの提示が求められた。私も、持参はしていた。台湾国内航空では嫌々ながらマスクをした。何かを食べるときは、マスクをちよつとだけはずしてもいいとあつたのには笑ってしまった。機内での飲食サービスは、SARSをだしに一切中止。観光地でも、体温測定はするし、お目当ての博物館が、やはり、SARSを理由に当分閉館ときた。飛行

機も、客が少ないことは分かるが、随分の減便、おかげで、台湾から、日本に帰るだけで、ほとんど一日を費やしてしまった。

それはともかく、5月6日火曜日の朝、昨日までは休日だったのだが、庶務係から電話があつた。こちらの健康状態を聞いたのはともかく、当分学校に来てくれるな、自宅待機しろと言う。まことに奇妙きつて、釈然としなかったが、そういう御上からのお達しがあつたのだらう、あらがつても仕方がない。ちようど連休がつぶれてしまったので、振り替え連休と思ひ、

降って湧いた休日を有効

に使うことにした。アメリカの大学で、中国・香港・台湾等からの夏期研修学生を閉め出す決定をしたところがあると報じていた。それに対して、一律にそうすることには納得がいかないという意見と、アメリカを守るためには仕方ないという意見があつた。日本のやり方は、これに限ったことではないが、一律主義。しかし、まさに、奇貨おくべし、この間にいろいろたまった仕事を片づけよう。

(T 2003・5・6)

マスク姿

今度のSARS騒動のなかで、台湾へ旅行したが、もう行き

マスクの有り無しをあちこちでチェックされた。おまけに、マスク着用を要求する文書の中で、何か食べるときはちよつとだけはずしてもいいと書いてあつたのには、笑わされた。

ところで、つくづくそのマスク姿を観察して思った。半数ぐらいの人がマスクをしていたときもそう思ったが、全員がマスクをしているのは何とも異様だ。いろいろデザインを工夫して、模様の付いたのや、形を丸くしたり、四角くしたり、ちよつと、一部分を三角にして飛び出させてみたりしていた。白いの有り、黒いの有り、水玉模様有り、花模様有り。毒ガスマスクのような物々しい物をしている人もいた。しかし、どう見てもどれもこれも優雅な物はなかった。とにかく異様の一語に尽きる。

今度、岩手県議会議員に顔マスクを付けたプロレスラーが当選して話題になっている。これは、マスクをして選挙運動をして当選したのだから、このマスクを取るのには有権者に対する背信に当たると言つてマスクは取らず、もう少し、表情なども分かる切り込みの大きいのを作るということ、マスクそのものはとらないと宣言している。最初反対した知事はあっさり認めたが、未だ抵抗は

あるようだ。他の議員達はどう判断するのか。

口と鼻を隠すマスク姿は今までも見慣れた物ではあるが、今回のように、全員がマスク姿と言うことはかつて無かったのだ、あまり気にもしなかった。し

スーパー・スプレッダー

今まで、あまり耳にしたことのない言葉だ。「特別ばらまき人」とでも言えればいいか。新型コロナウイルスSARSの流行に伴って使われ出した。

日本に来ていた台湾の医師が帰国後この患者だということが分かつて、日本国内も大騒動。帰国後10日経ったというので、ようやく安全宣言が出て、ひとまずは安心した。例の医師がスーパー・スプレッダーではなかったのだ。

かし、こうなってみると、人の顔の内、口元が見えないことはやっぱり変だと思ふ。そういう意味では、サスケ議員の方は、口は見えているからいいようにも思うが、さてさて。

(T)

発祥の地、中国では、それに当たる人がいた。随分の人に、新型コロナウイルスをまき散らしたようだ。その追跡の様子も報道されたが、大変な作業だったろうと、関係者の努力には頭が下がる。正体不明の、見えない敵相手だけに計り知れない苦労があったと思う。

今回のこの肺炎のことは、世界がますます狭くなっていることを示した。最初、これを過小評価し公表しなかった代償がこの拡大であつたが、一方では瞬時にそれがニュースとして伝わり、恐怖をまき散らしたということもある。そのための、いわゆる風評被害というものも莫大だ。最近のいろいろの現象を見てみると、隠し事はいけないという基本的なことが確認されると同時に、逆に、そのあまりに激しい報道、センセーショナルなニュースによる二次的な被害というものも問題があるように思ふ。冷静に、的確な報道が望まれると共に、人々の間違いない判断というものが求められるのだと思う。折しも、イラク戦争と重なり、旅行業界に与えた影響は甚大だった。

ところで、このスーパー・スプレッダーという言葉。もちろん、病気の拡散人には成りたくないが、自分の学問、語彙論、この分野の研究が、なかなか広げられないことに照らし合わせて考えると、何とか、そのスーパー・スプレッダーに成りたいものだと思う。(T 2003・5・25)

第37回技能オリンピック

ク(ワールド・スキルズ・コンペティション、スイスのザンクト・ガレンで開催)が6月26日終了、日本は金メダル6、銀メダル2、銅メダル3を獲得、地元ドイツ語圏有利の状況でよく健闘し、前回4個の金メダルから一歩前進した。

金メダルの内訳を見ると、精密機器組み立て、機械組み立て、CNC旋盤(以上3種目はデンソー)、木型、自動車板金(以上2種目はトヨタ自動車)、電子機器組み立て(日立製作所)となっており、名古屋の地元企業が技能者養成に尽力していることの反映であり、大いに歓迎したい。国別の金メダル獲得では前回20個と圧倒的な強さを誇った韓国が今回は10個と半減したが、国別ではやはり一位を獲得。以下、スイス8個、日本6個、台湾4個、オーストリア3個、ドイツ、シンガポール、ブラジル、オーストラリア、アイルランドが各2個、フィンランド、フランス、南チロル・イタリアリヒテンシュタイン、タイ各1個となった。

技能オリンピックは全部で38種目あり、一種目にエントリーできるのは一国1名のみで

22歳までという青年技能者を対象としたものである。従って、技能オリンピックは文字通り国と企業の威信を懸けた競技会であり、その国の20年後の技能の隆盛を占うものでもある。かつては多くの金メダルを獲得し、本番で勝つよりも国内予選に勝つことの方が難しいと言われた時代が日本にはあった。当時切磋琢磨した無名の名人世代は「ものづくり」日本の中核をなし、以後今日まで「ものづくり」の現場で日本を支えてきた。しかし、日

技能オリンピックで健闘した日本人

本の多くの企業はバブル時に「ものづくり」より「投機」による利益獲得に溺れ、本業の「ものづくり」を支える技能者を大量に失った。そのつけは重く、技能オリンピックでも苦戦が続いたのである。

最先端技術は、必ず名人芸的最先端技能を必要としている。例えば、非球面光学レンズを削る刃物は単結晶ダイヤモンドから作るのであるが、高性能の刃物を作るのはほんの数人であり、しかもどなたも高齢である。さらに言えば、こうした最先端

の技能を支えるのはほとんどが中小企業であり、彼らに後継者はいないというのが大半である。この問題は非常に深刻で、日本の「ものづくり」に大きな陰を落としている。

さて、眼を大学に向けてみよう。大学の教育・研究を支えているのは技術職員である。大学の研究は、時に非常に高度な技能を要求する。最先端の研究を支えているのは、実は数々の特異な技能・技術であることは、あま

り知られていない。

例えば、ある技術職員はアイソメ図といわれる立体的な作図によって研究のポイントを説明し、国際的な研究プロジェクトの表紙を飾るような活躍を見せている。彼の図は、見ているだけで研究の目的や手法が素人でもわかってしまうのだ。競争的資金の獲得にはこの手の作図は不可欠であり、場合によっては研究の成否を決してしまうほどの存在となりうる。このような図は、ただ単に絵が上手というだけでは書けない。研究の概要を

知り、それを素人にもわかる絵にするには才能と努力が必要であらう。しかし、このような能力は、市中を見渡しても得られるものではない。大学の技術職員として永年努力をしてきた結果得られた才能であり、能力であると言うことである。

私は、今日の大学がCOEなどの競争的資金を科学研究予算の中核に据えてそれを奪い合うのは、バブル時の日本の企業と同じような精神構造になりはしないかと、心配している。

自前で技術を育てることを放棄し、全てをお金によって調達しようという考え方は、全国の国立大学で、もうずいぶん前から進んでいる。それが「法人化」によって一層加速され、やがて大学が教育・研究に必要な技術を全て外部に頼るとき、大学の研究が個性と活力を失うときではないか。

大学の技術職員は育つのに時間がかかる。若い人を計画的に採用し、今から育てていかないと、大学の独創的な研究を支えることができなくなると、大いに心配している。

(理学部 河合利秀)

ニユースに一喝!!

おびえる ―不安ビジネス17兆円―

イラク戦争を前にしたアメリカ国民の不安は言い様もないものだったようだ。テロに怯え、毒ガス攻撃に怯え、細菌戦に怯え、とどまるところがない不安にとらわれていた人々の様子が放映されていた。それをビジネスチャンスにしているしたたかな人々も一方にいる。セキュリティということが実に多方面で言われる。実際に賊に侵入されないために二重三重のチェックポイントを作る。自分が閉め出されるといった笑えないトラブルも発生する。指紋による鍵開け、声によるもの等色々考えられている。莫大な費用を掛けて、逃げるために一式の用意をし、また、逃げられなかったために家

に閉じこもって攻撃に備えるための用意をし、それでも不安に駆られて、何か用心用の買い物をしていなければ不安にさいなまれるという人の話もしていた。気の毒というか、そこまで行くともう、病的だ。

他のことにお金を使えばいいと思う。第一、あの程度のテープで目張りするくらいで、毒ガスや生物兵器から守れるのか、仮に守れたとして、家から一歩でたらどうなるのか、よく考えてみれば、ばかばかしいことがわかるだろう。

我々が子供の頃、鍵の掛けであるような家は本当に財産家でねらわれるような所だけだった。錠が掛けてあっても形式的、鍵は扉の上にあったり、直ぐ下の牛乳入れにおいてあったりする。大学の研究室などでも同じ事だった。それで問題の起こる

ことはなかった。嫌な世の中になったものだ。

コンピュータ社会特有の不安もある。コンピュータはともて有能だが、故障しないとも限らない。いわゆる迷惑メールなども大変な数、アメリカの話で、一寸オーバーな気もするが、一日に72億通もの電子メールが行き交い、そのうちの10億通は迷惑メールで、ウィルス入りも沢山あり、新型ウィルスを発見する毎に直ちに対策を講じているという。ライフラインもこのごろはコンピュータ制御が多く、それを攻撃されたらおしまいというので、セキュリティ専門業者が一生懸命対策を作って売り込んでいるという。重要なことだが何か間違っているような気がする。人間は元々性悪なのだろうか。それとも、コンピュータ社会がそんな人間を作ってしまったのだろうか。セキュリティは大切だが何とも勿体ない話だ。

このごろは、SARSでテレビの話題は持ちきり。ちょうどそのころ台湾に来ていた。

ゴールデンウィークだというのに飛行機はがらがら、荷物検査も、出国検査もスイスイと済んだ。但し、荷物の中に、何があつたか、全部開けてみられた。特別の物は勿論無い。一回は、「水」が手荷物に入っていたらそれが引つかかった。同行の者は「飲め」と言われた。私は、言われずに済んだ。異様なマスク姿に取り囲まれ、何ともはや不気味な感じがした。マスクが売り切れて、まさに「風が吹けば桶屋が儲かる」式の大喜びの所も有る。北京など外出を控えると言われ、買いだめに走る人々のために店の物がなくなつたところも出てきているという。些か常軌を逸した振る舞いのように見えるが、不安心理がそうさせているのである。マスコミが騒ぎ立てるからいけないという人もいるが、難しいところ。もう一種パニック状態だ。今年は、イラク攻撃からSARS攻撃とろくな事が無い。

何かすかつと明るいニユースが待ち遠しい。

(田 2003・5・1記)

5・6月号 の感想

インタビュー面白かった

★大峯理学研究科長のインタビューはいろいろと考えさせられる所もあり、面白かった。【匿】

不思議な物体Ⅱ水

★水という物は不思議だと思いました。意外な一面を考えることができるというのはいいことだと思います。【浅野大介】

是非、大峯研究科長の記事を

★久しぶりに読みました。(個別配達を止めたのは止むを得ないものと思います。大峯理学研究科長へのインタビューが面白かった。未だの人は是非バックナンバーを。【金丸信明】

次のインタビューにも期待

★大峯研究課長のインタビュー記事、読み応えがありました。これからの記事にも期待します。【SSN】

好奇心を伸ばしていける 教育と教師の生産が重要

★最初の大峯理学研究科長へのインタビューが面白かった。いきなり、大峰さんが「Gee」のポーズをしている写真が入ってきて、さすが水の構造をゲッツした事を強調してるのだな、って勝手に思いこんでしまいました。そんな分けないですね。本当に重要な研究は、何の役に立つのかすぐにわからないようなものだと思います。今の時代は、何に役立つかを明確にしないと研究として認めてもらえない方向に進んでいます。子供には、もとも好奇心を持ってるのに、いったん取り上げて、学校に進学する為の勉強を強いて、それからどうやって(理科の)興味をもたせましょうか? っていう時代がおかしすぎます。素直に好奇心をのばしていける教育とその教育ができる教師の生産(小学校、中学校の先生の給料をもっと上げましょう)が大切なのではないのでしょうか? 【何が変わった小泉さん】

やっぱりMacですね

★大峯先生の写真をみて一言。「やっぱりMacintosh使ってみえるのね」【ナンバー6】

大峯先生のオーラを感じた

★大峯先生の表紙の写真が若干いけてないような、先生のオーラを感じました。今月号は誤字が多めだった気がします。【えすばあー】

生協はストレス解消の場

★大峯先生の生協はストレス解消の場というのは同感です。コンビニでは無理ですね。【赤塚保雄】

平和のために頑張って

★イラク攻撃に対する理事会アピール。もっとアピールするところが、世の中の平和につながるでしょう。がんばってほしいです! 【prelude】

生協のカラーをもっと

★「イラク攻撃に対する理事会アピール」を読んでもっと反戦を強く唄っても良いのではない

だろうか。色々様々な考え方はあるでしょうが、生協のカラーがもっと出ても良いのでは? 【チエリー】

米国に従うよりも

★チリの人は米国のあのような行為には反対だとあり、改めて日本はどうすべきか考えさせられました。イラクや北朝鮮との関わり方にも、米国に従うよりも日本にしかできないスタイルというものがあると思うのですが。【斑鳩】

きれいい好きが汚れている

★きれいい好きが汚れています。うんそうですね。【JK十士】

応募者が4人とは

★前号は配布からクイズの締め切りまでの期間が非常に短かったと思います。そのせいか応募者が4人とは・・・ 【G】

クイズの種類増やして

★もう1種類くらいクイズがあるといいと思う。【Siripan Limsirichakul】

クイズが簡単!

★クイズが簡単、もつとがんばって!
【こはん】

花より団子

★花見といえば、やはり飲み会ですよね。どうしても桜よりダングのほうに目がいつてしまいます。若いからかなあ〜【やし】

意見と通信

インタビュー企画を続けて

★これからも、このような学問に関するインタビュー企画を続けてほしいです。
【浅野大介】

生協は文化の中心

★上記の中のキャッチ「生協は大学の文化の中心でなくてはならない」に同感。そもそも大学が文化の中心であるはずです。それにしては休日(休みの期間)に現われる学生が少ない。「存亡の危機」に立たされている両者の協力が望まれる。
【金丸信明】

教科書のリユースも

★大峯先生の話で海外の大学生協の話がありました。米国の大学構内では、教科書・専門書の古書販売が行われているのを目にしたことがあります。教科書はリサイクル率の高い品物ですし、専門書も絶版などで店頭から消えたものが、古書で手に入れば助かります。日本の生協でも、このような試みが検討されることを期待します。
【SSN】

多くの人に読んでほしい

★クイズの応募者が少ないのは「かけはし」が多く行き渡っていないからではないでしょうか? 折角内容の濃い「かけはし」なのだから、もつと多くの人に読んでもらいたいですね。
【赤塚保雄】

政治の情報がほしい

★「りそな銀行」への税金投入を見守る記事ただでさえ、銀行員の給料は高いと聞く、何も開示されず、国民の税金を銀行につぎ込む政治の情報がほしい。
【チエリー】

★サッカー特集。

【UK+】

★車の特集。

【prelude】

難しいクイズを

★もつと難しいクイズ! がほしい!
【こはん】

違うクイズも出して

★ここ何回かQUIZにロジックが採用されていますが、時々はちがうクイズを出して欲しいです。
【斑鳩】

クイズ出し忘れていた

★前回のクイズは解けていたのに、出し忘れていました。しまつたあ。
【ナンバー6】

暑さ対策・夏バテ防止の特集

★夏が近づいてきたので暑さ対策や夏バテ予防の話を特集してください。
【G】

★特になし

【Siripan Imsrichaikul】

今のままで十分

★特にはありません。今のままで、十分に楽しめています。
【何が変わった小泉さん】

周辺史跡の紹介を

★名大周辺の史跡などを散策した記事を書いてください。
【やし】

企画の宣伝を充実させて

★生協でする企画などの宣伝をもつと充実させてほしいです。店頭に行くまで企画があることがわからなかったことも何度かあったので、。広告宣伝費がかかるというのであれば生協ホームページの活用なども検討してみてください。
【匿名希望】

▼生協からのご案内には「かけはし」の他にも生協通信やその月のカタログショッピングなども同封しております。お店の企画につきましては生協通信に各部門・各お店毎にまとめて書かれておりますのでそちらをご参考にして下さい。
【箕浦常務理事】

私の読んだ本

「効率」と「競争」の社会を告発 —人間社会の本質は互助と互惠—

柴田 敏之 (工)

「失われた10年」が12年、13年になろうとしている。

泥沼の不況から立ち直ろうとして為政者たちが打つ手は、バブル時代と変わることなくいつそうの「効率」と「競争」の追求である。

日本社会を泥沼に引き込んだ責任は、政治家の失政だけでない。

く産業界の失策でもあった。彼らは自らの失政・失策をタナにあげ、大学は「効率」が悪い、産業界への貢献が足りないからだ、と決めつけ、たくらんだのが国立大学の独立行政法人化である。したがって当然ながら文科省の権威を借りて、大学にいつそうの「効率」と「競争」を強制しようとしている。

こんなに簡単なすじがきが分かってか分からぬでか、「独法化に賛成」だという大学人もいた。

この本は、「効率」と「競争」がいかに労働者・子どもたちの生活に歪みをもたらすかを厳しく告発。人間社会の本質は互助と互惠の精神にあると、つぎのように熱く説く。

「もし人間社会の本質をグローバルな競争社会であると考えたら、私達は競争

を当然と思い、社会の閉塞を開する道をよりいつそうの競争促進に求めることになる。競争のためなら競争の邪魔になるものを排除し、競争に勝つことに資するものだけを評価するようになる。

しかし、もし人間社会の本質を助け合う互助と互惠の社会だと考えたら、修復不可能な自然破壊を食い止めようとするだろう。八億もの途上国の人が餓死するような経済競争のグローバル化に質的な転換を求めるだろう。過労死や非人間的な労働環境をもっと自然なよろこびのある協働の場に換えようと労働組合も動き出すだろう。子どもの教育を競争から、多様な創造性とあふれるエネルギーによる学びの共同体に変えようとするだろう。人々は福祉と平和の実現こそ、ほんとうの人間の目的であると考えようだろう。」

★「豊かさの条件」(暉峻淑子著) 2003年5月・岩波書店(新書)刊・定価(本体740円+税)

暉峻淑子著

豊かさの条件



真に豊かな社会を どう築くのか?

ベストセラー『豊かさとは何か』の著者が
自らのNGO活動から考えぬく

岩波新書 最新刊 定価(本体740円+税)

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部
センター _____ 専攻・課
学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

.....山.....折.....り.....

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 248 号

クイズのこたえ _____

☆ 今月号を讀
んでの感想

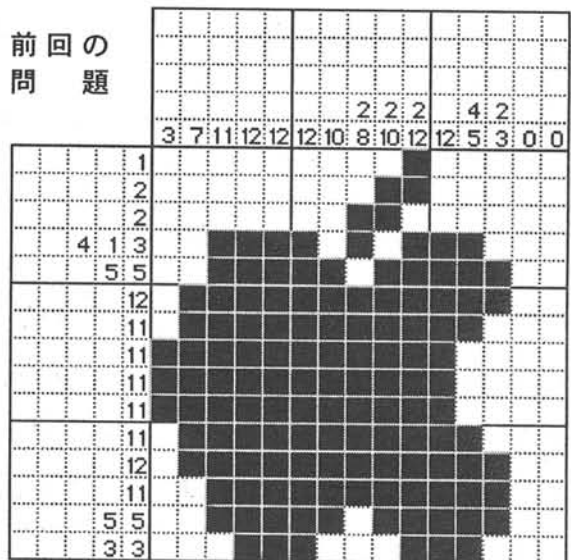
☆ 記事にしてほしいこと。生協へ
ご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

QUIZ

2003年7・8月号

前回の
問題



- 締め切りは8月15日
- 発表は本誌、9・10月号
- 正解者(但し、①組合員
|| 当選後ご加入も可、
②意見・感想記入者)の
中から、抽選で5人の
方に図書券をさしあげ
ます。
- 生協への意見・要望をど
しどしお寄せ下さい。

・応募総数
：
：
：
16人

・正解者数
：
16人

・ 当選者（敬称略）

浅野大介（工学研究科）

龜山貴嗣（工学研究科）

佐々井崇博（環境学研究科）

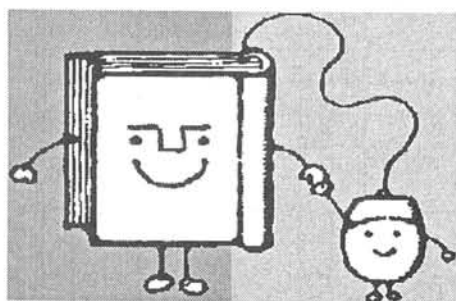
中塚 理 (理工科学総合研究C)

赤塚保雄（情報連携基盤C）

以上の5人の方に図書券をお送り
します。

登録&利用促進キャンペーン

7/7(月)~7/13(日) 15%OFF!!



- ・期間中の『本やタウン』でご注文が対象になります、利用班でもOK!
- ・ただし、お支払いは 現金・COPAカード・プリペードカード の場合のみ有効です。
(図書券・図書カード・COPA以外のクレジットカードは通常割引となります)
- ・ご利用の際は必ず組合員証をご提示下さい。

この機会に『本やタウン』にご登録を!

ご登録・ご利用方法については

<http://www.honya-town.co.jp>

(受取店舗は南部書籍をご指定ください。)

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052>781-1111 (内線7540)

- 書籍(和書・洋書・雑誌)に関するご相談は ●旅行(国内・海外)・宿泊に関するご相談は
北部書籍(内線7544) 南部書籍(内線7551) 北部旅行・サービスセンター(内線7543)
医学部書籍(内線5208)大幸書籍(内線5552) 南部旅行・サービスセンター(内線7550)
- 文具・事務用品に関するご相談は 医学部旅行・サービスセンター(内線5213)
北部購買(内線7542) 南部購買(内線7549) ●印刷とデジタルデータに関するご相談は
医学部購買(内線5209)大幸購買(内線5552) 印刷・情報サービス部(内線7552)
農学部購買(内線7557)
- レストラン「花の木」(内線7605) ●パーティー料理・弁当に関するご相談は
弁当部(内線7553) 理系食堂(内線7555)